

## ご利用になる前に必ずお読みください

このPDFファイルの内容についてのご質問・お問い合わせは株式会社アスキー・メディアワークスでは一切お受けできません。ご自身の責任においてご利用ください。



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスの下でライセンスされています。この使用許諾条件を見るには、  
<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/>をチェックしてください。

このファイルをクリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスに基づいて利用する際には、下記クレジットを必ず作品や配布物に表示する必要があります。

クレジット：

- 文/水野 源、村田信人、柴田充也、吉田 史、あわしろいくや ([Ubuntu Japanese Team](#))
- 図版/古川誠之
- デザイン/シオズミタロウ
- 初出/株式会社アスキー・メディアワークス「Ubuntu Magazine Japan vol.05」  
(<http://ubuntu.asciimw.jp/>) 2010年8月31日発行

# 状況から脱出!!

選びに選び抜かれた、珠玉の標準アプリを使いこなせば、Ubuntuライフはもっと快適になること間違いナシなのだ!!

# 使いこなし術

## 「なんとなく」使っているだけじゃもったいない!!

### 「高機能な標準アプリを使いこなせ!」

Ubuntuにはウェブブラウザからオフィススイートまで、様々なアプリケーションが標準で用意されている。OSの標準アプリという「しょせんOSのオマケで、電卓とソリティア程度のものでしょ?」と思うかもしれないが、それは大間違いだ。Ubuntuに限らず、Linuxの世界で使用されているソフトウェアはほとんどがフリー(自由)ソフトウェアだが、これらのフリーソフトウェアは自由な再配布が認められている。つまり世界中から集めた優秀なフリーソフトウェアを、OSの一部として提供することが可能なのだ。このような背景から、現在ほとんどのLinuxディストリビューションは、ユーザにとって有用な

ソフトウェアをOSに同梱して配布している。これは、ユーザがメーカーにお金を払ってソフトを追加購入するのが普通のWindowsと大きく異なる、Linuxの特徴と言えるだろう。

そんな中でもUbuntuは、DVDではなく1枚のCD-ROMにOSとアプリケーションを収録するというポリシーがあるため、余計なアプリを搭載する容量的余裕がない。そのため標準搭載されているアプリケーションは、Ubuntuプロジェクトによって選ばれるに選抜されたアプリケーション、オススエ中のオススエであると言っても過言ではない。標準でインストールされている主なアプリは左の表のとおりだ。本特集ではこれらのアプリが持っている隠された実力を、徹底的に解説していくぞ!

### 「標準アプリよりお気に入りがある場合は」

Ubuntuの標準アプリは万人にオススエできる優れたソフトばかりだが、好きなアプリを自由に選べるのもUbuntuの魅力のひとつだ。例えばUbuntuの標準ウェブブラウザは「Firefox」だが、GNOMEの標準であるE Piphanyや、Chromiumといった別のアプリをインストールして、Firefoxの代わりに「自分の標準ブラウザ」にすることもできるぞ。

「システム」→「設定」→「お気に入りのアプリ」では標準のウェブブラウザやメールを、現在インストールされているアプリの中から自由を選ぶことができるようになってきている。お気に入りのアプリを変更しておけば、URLやMailtoといったリンクをクリックした際に、指定したアプリで開くことができる。

「開き方」を開けば、その拡張子を持つファイルをダブルクリックした際に、どのアプリケーションで開くかを指定できるぞ。さらにファイルブラウザの「編集」→「設定」→「メディア」からは、オーディオプレイヤーやデジタルカメラを接続した際に、自動的に起動するアプリを右クリックし、「プロパティ」

「開き方」を開けば、その拡張子を持つファイルをダブルクリックした際に、どのアプリケーションで開くかを指定できるぞ。さらにファイルブラウザの「編集」→「設定」→「メディア」からは、オーディオプレイヤーやデジタルカメラを接続した際に、自動的に起動するアプリを右クリックし、「プロパティ」

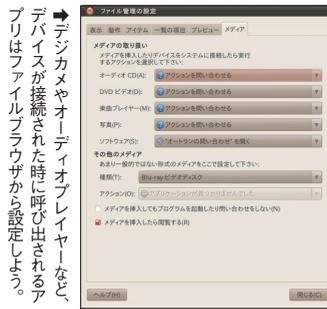
## Ubuntuの主な標準アプリ

ファイル・ブラウザ	Nautilus
ウェブブラウザ	Firefox
メール & PIM	Evolution
マイクロブログクライアント	Gwibber
インスタントメッセージ	Empathy
テキストエディタ	gedit
オフィススイート	OpenOffice.org
軽量BitTorrentクライアント	Transmission
CD/DVDライティングソフト	Brasero
写真管理 & 簡易画像編集	F-spot
簡易動画編集	Pitivi
ミュージックプレイヤー	Rhythmbox
メディアプレイヤー	Totem
ターミナル	Gnome端末
リモートデスクトップ	ターミナルサーバクライアント
簡易スキャナーユーティリティ	Simple Scan
デスクトップ付箋	Tomboy
パーソナルクラウドサービス	Ubuntu One

## お気に入りのアプリの設定



## メディアの自動起動



## ファイルの開き方



# 標準アプリ徹底

使ってるようで「使えてない」そんな

日本語版の「定番」アプリを入れよう!!

## 「日本語環境セットアップヘルパ」

「日本語環境セットアップヘルパ」は日本語環境の定番アプリを提案してくれる心強いツールだ。2chブラウザや日本語フォントといった日本人向けのアプリだけでなく、「Flash Player」や各種

「日本語環境セットアップヘルパ」を起動するといだろう。また、Ubuntuソフトウェアセンターの分類、「日本語環境」でも、同じ一覧を得られる。インストールできるアプリは大



→ 欲しいアプリやフォントを入れてOKを押すだけでインストールできる親切設計となっている。

ざっぱに2種類に分かれている。まず、「公式リポジトリから提供されているおすすめアプリ」。さらにフリーとノンフリーで分けられるが、どちらも公式リポジトリで提供しているものだ。ただし、

もう一つは「Japanese Teamが独自に配布しているアプリ」。主にライセンスの都合で、公式リポジトリには入れられないパッケージが提供されている。Ubuntuの正式サポート対象外だった

そのよきを実感してほしい。



→ ソフトウェアセンターだと、より詳細なアプリの説明や、一部はスクリーンショットも見る事ができる。

## 追加で入れたいアプリはコレ!

### ●GIMP

→ 標準ではなかったが、非常に強力なベントツル。写真を加工するなげひ入れておきたい一品。

### ●Thunderbird

↑いわずとした定番メーラ。10.04では、念願のタブ機能が実装された3.0系だ。

### ●Sylpheed

→ シンプルなUIと高機能を両立した、軽量メールソフト。最新版ではGmailとの親和性が向上している。

### ●Epiphany

→ GNOME標準の軽量ブラウザ。Google Chromeなどと同じ、WebKitエンジン。

### ●JD

### ●Adobe Reader

→ Japanese Teamのリポジトリからなら、Adobe Readerの日本語版をインストール可能。

# Gwibber



↑ Ubuntuなら Twitter クライアントが標準で付属。これを使わない手はない。

# Twitterに気軽に「つぶやけ」

「アプリを追加しなくても標準でつぶやける！」

「Gwibber」は Twitter (http://twitter.com/)、identi.ca (http://identi.ca/)、Facebook (http://www.facebook.com/) といったウェブサービスにアプリケーションから投稿できるソーシャルクライアントだ。ウェブブラウザからページを開いてメッセージを入力して……、といった操作をすることなく、専用クライアントとして簡単に投稿できるようになっている。さらに複数のサービスに同時に同じメッセージを配信したり、新着メッセージをデスクトップ上にお知らせを出して通知してくれるりする。

検索結果ごとにストリームをつくり、複数のストリームを並列表示して、さまざまな情報を一度に閲覧したりもできる。Twitterのダイレクトメッセージの受信にも対応しているぞ。さつそく Twitterなどのアカウントを Gwibber に設定してみよう。

ただし、ダイレクトメッセージへの返信や Twitter のリスト機能などには未対応だ。



## タイムライン表示

◀左側のアイコンをクリックして表示する内容を変更できる。メッセージを投稿する場合は、画面下の欄に入力し [Enter] キーを押すか [送信] をクリック。画面最下部に表示されているサービスのアイコンをクリックすると同時投稿するアカウントを選択できるぞ。

## ログイン名、パスワードを入力



◀ログイン名とパスワードを入力して [追加] をクリックすると、画面左側にアカウントが追加される。他のアカウントも登録する場合は、画面左側の [追加] をクリックしよう。



## ハッシュタグを抽出

◀ [Gwibber] - [検索] をクリックすると検索画面が表示される。ここにハッシュタグを入力して検索を実行すれば、ハッシュタグが含まれた発言のみのタイムラインが作成できる。検索結果は画面左に検索アイコンとして保存されるので、いつでも閲覧できるぞ。



## 表示するストリームを増やす

◀ [Gwibber] - [新しいストリーム] をクリックすると、表示するストリームを増やせる。ストリームに表示する内容は、ストリームのタイトルのすぐ左に表示されている [▼] をクリックして選択しよう。全体のタイムラインと返信とをそれぞれのペインで表示するといった使い方ができるぞ。



## もっと素早く ツイート!

◀デスクトップ右上に表示されているユーザー名をクリックして表示されるテキストボックスにメッセージを入力してエンターキーを押すと、素早くツイートできる。



↑タイムラインの更新は、デスクトップ右上にお知らせが表示される。このお知らせが邪魔だと思う場合は、Gwibber の設定からオフにできる。

## TweetDeckがUbuntuでも使える



↑ TweetDeck (http://www.tweetdeck.com/desktop/) はフォントの設定を変えれば使える。

「Adobe AIRで作成されたアプリにも使える!!」

「TweetDeck」な Twitter クライアントとして有名なものの中には Adobe AIR を使って作られているアプリケーションがある。Gwibber 以外にもいろいろなクライアントを試して、自分に合ったものを見つけてみよう。

Adobe AIR をインストールするには「システム」・「システム管理」・「ソフトウェア・ソース」を開いて、「他のソフトウェア」と書かれたタブを選択する。表示されているものの中から「partner」という文字列が含まれたものにチェックを入れて閉じよう。続いて、Ubuntu ソフトウェアインストーラしよう。

Adobe AIR をインストールしたら、各アプリケーションの配布ページでボタンをクリックするとアプリケーションがインストールできる。

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

Ubuntuプロジェクトの各チームは、IRCというチャットを利用してオンライン・ミーティングを行っている。Empathyを使えばこのIRCミーティングにも参加することができる。MeMenuから「チャットアカウント」を選択するとアカウントの追加ダイアログが表示されるので、「追加」をクリックしてIRCプロトコルを選択しよう。ネット

Empathyは、Google TalkやICQといったプロトコルに対応したインスタントメッセージャーだ。パネル右上のMeMenuとも統合されており、MeMenuからオンラインステータスの変更や、アカウントの管理が行える。Empathyをはじめて起動すると、アカウントの設定ウィザードが起動する。ここでGoogle TalkやFacebookなど、自分が使用しているサービスのアカウントを登録しよう。登録が完了すると、「仲間リスト」にフレンドのオンライン状態が表示されるようになるぞ。

## 「IRCミーティングに参加してみよう」

Ubuntu 10.04 Standard Apps

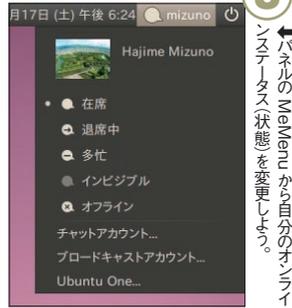
## Empathy



↑Google Talk からIRC まで、幅広く使えるインスタントメッセージャー

トワークは「Ubuntu Servers」を選べばいい。あとは自分のあだ名を入力して「ログイン」をクリックするだけでIRCに接続できる。IRCはサーバ上に複数の「部屋」が作成されており、チャットに参加するにはそれぞれの部屋に入る必要がある。「部屋」「参加」をクリックして、参加したい部屋名を入力しよう。

### MeMenuから操作



↑パネルのMeMenuから自分のオンラインステータス状態を変更しよう。

### 仲間リスト



↑仲間の一覧が表示されるので、ここからプライベートチャットも開始できる。

### アカウントを設定



↑初めて起動すると、アカウントの登録ウィザードが表示される。普段使っているサービスのアカウントを登録しておこう。

# 定例ミーティングにも参加できるぞー!

### メッセージの通知



↑他のメンバの発言は、Notify OSDを使ってデスクトップに通知される。別の作業をしている場合も発言は見逃さないぞ。

### 定例ミーティングに参加!



↑参加者のリストと会話のログが表示され、部屋に入れた状態。通常のチャットと同様の操作で発言するもできるぞ。

### 部屋に参加しよう



↑Japanese Teamの部屋は「#ubuntu-jp」だ。

### IRCを設定する



↑IRCの設定は、初回起動時のウィザードからは実行できない。アカウントの追加を選択して、IRCサーバを選択しよう。

### 会話の通知



↑IRCと同様、相手の発言はNotify OSDで通知される。サウンドを有効にしていれば音でも着信を知らせてくれるぞ。

### 登録を承認しよう



↑登録を承認してチャットに参加しよう。なお2回目以降はこの操作は不要だ。

### チャットへの招待



↑初めての相手からチャットに招待されると、このように通知が表示される。インジケータプレットをクリックして、登録のダイアログを呼び出そう。

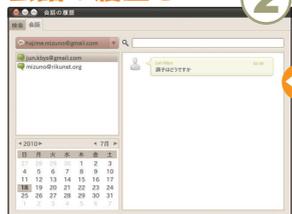
「プライベートなチャットもOK」  
オンライン状態でいると、チャットの招待を受けることもあるだろう。チャットに招待されるとデスクトップ上に通知が出て、インジケータプレットのアイコンが緑色に変化する。ここで招待

### 会話の通知



↑こちらからチャットを開始した場合でも、当然着信のメッセージはNotify OSDで通知されるので安心だ。

### 会話の履歴も



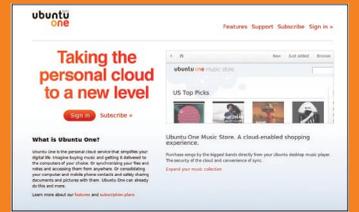
↑相手ごと、日付ごとにチャットの内容が保存されているぞ。過去の会話を検索できる。

### 新しい会話の開始



↑音声やビデオを使ったチャットも可能。相手が音声チャットを許可していれば、このように呼び出すことができる。

のリクエストを承認すれば、仲間リストに呼び出した相手が登録されてチャットが開始される。自分から友達とチャットを始めた場合は、仲間リストでチャットしたい相手をダブルクリックしよう。相手を右クリックして「音声で会話」を選択すれば、ボイスチャットの呼び出しも行えるぞ。



↑英 Canonical が提供しているオンラインストレージサービス。

# 複数PCのデータ同期が簡単に

## 「音楽やメモもPC間で同期してくれる」

Ubuntu One は複数の端末を持つ場合、データの同期が簡単にできるサービスとして登場した。インターネット接続を通じてクラウドにファイルを保存し、Ubuntu One に登録したマシンすべてを同期してくれる便利なサービスだ。すでに Launchpad のアカウントを持っている場合は、そのアカウントで Ubuntu One にもログインできるので新たにアカウントを作成する必要はない。

Ubuntu One と Launchpad のアカウントをまだ持っていない場合は、初期登録するのは少しだけ面倒だが、それを済ませてマシンを登録してしまえば、後は自動で同期作業をしてくれる。同期が完了したファイルはウェブインタフェースからもダウンロードできるので、出先で急にファイルが必要となった場合でもウェブブラウザが使える環境さえあればファイルをダウンロードできる。

さらに Ubuntu One に置いたファイルに対しては公開用の URL を取得でき、その URL を他人

## Ubuntu Oneの初期設定



1 [システム] - [設定] - [Ubuntu One] を開こう。すると、ウェブブラウザでアカウントの設定画面が表示される。

Ubuntu One は無料プランと有料プランがあり、無料の場合2GBまでの容量が使用でき、1ヵ月10ドルの有料プランに申し込むと50GBまでの容量が使えるようになる。Ubuntu One は Tomboy、Evolution の接続先、Firefox のブックマークの同期機能を持っているが、このうち接続先とブックマークの同期のサービスは停止中だ。

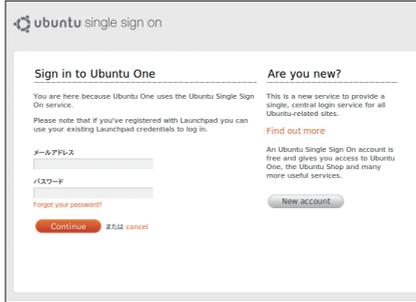
に教えれば簡単にファイルを配布できる。ただ、この場合はURLにアクセスできた人が誰でも閲覧できるので、第三者に見せてはいけないファイルなどは閲覧できるアカウントを指定する「Ubuntu One で共有する」を使おう。

## Eメールアドレスの入力

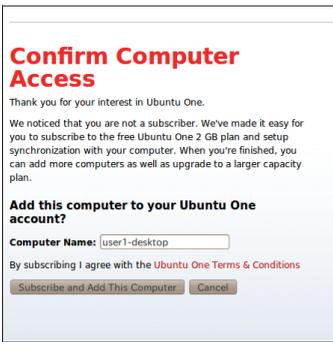


3 メールアドレスと、確認用の文字列を入力して [Continue] をクリックしよう。すると、メールアドレスが存在するかの確認メールが送信されるので、メールに書かれているリンクをクリックして登録作業を再開しよう。

## アカウントの登録

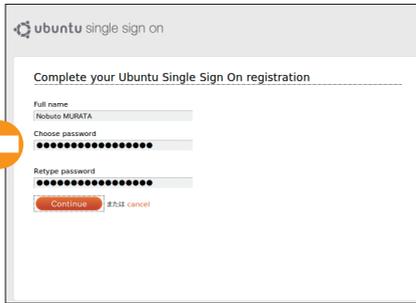


2 すでに Ubuntu One や Launchpad のアカウントを持っている場合は入力しよう。アカウントを新たに作成する場合は [New account] をクリックしよう。



5 Ubuntu One に端末を追加 ←この画面で端末を Ubuntu One に登録する。コンピュータ名を確認して [Subscribe and Add This Computer] をクリックしよう。

## 名前とパスワードの入力



4 名前とパスワードを入力して [Continue] をクリックしよう。



## 現在は一時休止中

←現在は休止中だが、Ubuntu One は Evolution のアドレス帳同期に対応している。(2010年8月中旬時点)。

「アドレス帳やブックマークの同期は停止中」  
Ubuntu One は単純なファイルだけでなくブックマークやアドレス帳も同期できる。はずなのだが、現在 Ubuntu One のサーバ側の問題でこの機能は無効になっている。便利な機能だけに2ヵ月以上もサービスが停止しているのは残念だ。Ubuntu One のバグ報告 (https://bugs.launchpad.net/bugs/585530) やスネークページ (https://wiki.ubuntu.com/UbuntuOne/Status) Twitter アカウント (http://twitter.com/UbuntuOne) などへ復旧のお知らせを待とう。今後 Ubuntu One に期待だ。

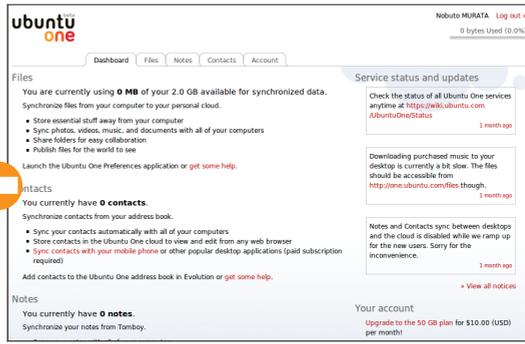
# 標準 アプリ徹底使いこなし術



7

## 端末側での設定

◀次は端末側での設定をしよう。この画面で名前やEメールの項目に先ほど登録した内容が表示されていることを確認したら「デバイス」タブを開こう。



6

## 登録完了

◀これが Ubuntu One のウェブインタフェースだ。この画面が表示されたら登録は完了なので、一旦ブラウザを閉じよう。



9

## 同期する項目を選択

◀この画面では Ubuntu One を使って同期する項目を選択する。ブックマークを同期するには Firefox の拡張機能が必要なので「インストール」ボタンをクリックしてインストールしておこう。

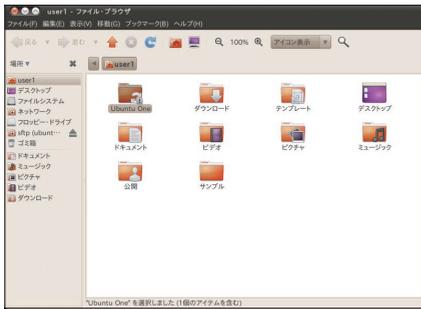


8

## 利用PCを登録

◀この画面で「接続」をクリックすると、今使用している端末が Ubuntu One に接続される。他の端末も登録したい場合は、その端末でも「接続」ボタンをクリックしておこう。

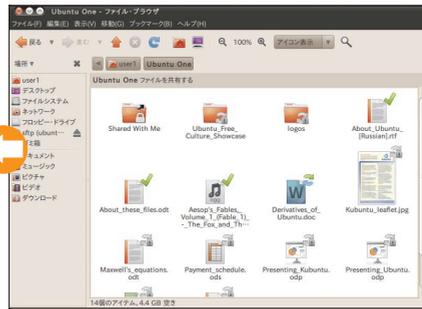
## 同期したいファイルをフォルダ内にコピー



11

◀ Ubuntu One フォルダ内にコピーしたファイルは自動で同期される。緑色のチェックマークが表示されたら同期完了だ。同期したファイルは他の端末の Ubuntu One フォルダにも表示されるようになる。

## Ubuntu Oneフォルダが作成される



10

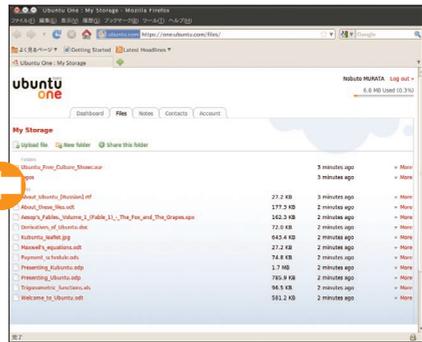
◀ Ubuntu One との接続が完了すると、ホームフォルダ内に「Ubuntu One」フォルダが現れる。Ubuntu One でデータを同期する場合はこのフォルダを使おう。



13

## ファイルを全世界に向けて公開

◀ファイルを右クリックして「Ubuntu One 経由で公開」を選択すると、インターネット上からアクセスできる URL が発行される。もう一度右クリックすると URL をコピーするメニューが現れる。



12

## ウェブからもダウンロードできる

◀同期したファイルは Ubuntu One のウェブインタフェースにも表示される。外出先でファイルが必要になったときでもダウンロードできる。

## ウェブで編集も



↑ウェブでも蛍光ペンや箇条書きなど Tomboy アプリと同様の装飾機能を使える。

## メモをUbuntu Oneで同期



→サービスの項目に「Tomboyウェブ」を選んで設定しておく

**Tomboyメモも Ubuntu Oneで同期**

Tomboy (97 ページ) で保存したメモも Ubuntu One を使って複数のコンピュータで同期できる。TODO 管理などを Tomboy でもしている場合に便利な機能だ。設定画面の「同期」タブのサービス項目で「Tomboyウェブ」を選択して「サーバに接続」をクリックしたらウェブブラウザでログインしよう。自動で同期をする場合は「毎回バックグラウンドで自動的に同期する」にチェックを入れておこう。

同期したメモはウェブインタフェースで閲覧したり編集したりできる。

# Firefox



↑さまざまなアドオンを追加することでパワーアップする Web ブラウザとしておなじみ。

# 標準ブラウザをいっから使えなくなります

## 「Firefox」プラグインを追加しよう

Ubuntu の標準ブラウザ、Firefox は Windows でもおなじみのブラウザだ。

標準でインストールされているものの、Flash や Java といった、いくつかの必要なプラグインが含まれていない。つい「Adobe.com」から Flash をダウンロードしてしまいがちになるが、これは正しくない。「ソフトウェア・センター」で「Adobe Flash」を検索してインストールしよう。また「このページをすべて表示するにはプラグインを追加する必要があります」という表示から「プラグインを追加 (I)」をクリックして「プラグイン検索サービス」

## ダウンロード……?



↑ www.adobe.com から Flash をダウンロード……してはいけません。

## ソフトウェアセンター



↑もちろんソフトウェア・センターからあらかじめインストールしておくことも可能。

## プラグイン検索



↑Firefox に組み込まれたプラグイン検索サービス。一番上の「Adobe Flash Player (Installer)」を選択する。

## インストール後の操作

```
$ sudo update-java-alternatives -s java-6-sun
$ cd /usr/lib/mozilla/plugins
$ sudo ln -sf /usr/lib/firefox/plugins/flashplugin-alternative.so
$ sudo ln -sf /usr/lib/jvm/java-6-sun-1.6.0.20/jre/plugin/i386/ns7/libjavaplugin_oji.so
$ sudo ln -sf /usr/lib/jvm/java-6-sun-1.6.0.20/jre/lib/i386/libnpjp2.so
```

## リポジトリ設定



↑「partner」リポジトリにチェックを入れて閉じる。

## FirefoxのAppArmorオン

```
$ sudo aa-enforce /etc/apparmor.d/usr.bin.firefox
```

## FirefoxのAppArmorオフ

```
$ sudo apparmor_parser -R /etc/apparmor.d/usr.bin.firefox
$ sudo ln -s /etc/apparmor.d/usr.bin.firefox /etc/apparmor.d/disable/usr.bin.firefox
```

## プライベートセッション



↑「firefox-private」としてランチャを登録しておく。必要に応じて利用すると便利。

「AppArmor」高セキュリティモード  
Ubuntu 標準の「隠し機能」のひとつとして、「AppArmor」というセキュリティ機能が準備されている。AppArmor は「ソフトウェア的にありえない動作」を検出して禁止することで、ウイルスやワームの動作を妨害する機能だ。Firefox 以外のソフトウェアでは標準で有効になっているが、Firefox で機能させるにはユーザーによる設定が必要だ。これは、Firefox 用 AppArmor はまだ未成熟で、インストールするアドオンによっては上手く動作しない・履歴のたぐいが再生されない・履歴のたぐいがうまく保存されない、といったトラブルが起こる可能性があるためだ。この機能は「通常よりも安全性を追求する必要がある」といった場合に利用するといいい。

「プライベートブラウジングモード」  
Firefox は「ツール」・「プライベートブラウジングの開始」と操作することで、セッション内で表示された URL の履歴・検索やダウンロードの履歴や Cookie・フォームへ入力した文字列などを保存しないモードに切り替えることができる。  
第三者に見られたくないデータがある場合や、家族で同じアカウントを使い回しているような場合には、このモードを使うことでプライバシーを守れるだろう。が、毎回プライベートブラウジングを指定するのは面倒なので常時プライベートブラウジングにしたい場合、パネル上で右クリックし、「パネルへ追加」を選択して「カスタムアプリケーションのランチャ」を選択し、「firefox-private」を登録しておく。

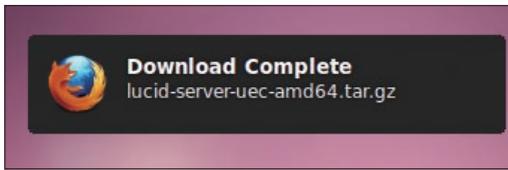
から自動検索することでもインストール可能だ。  
Java については「icedtea6-plugin」パッケージをインストールすれば利用可能になる。Flash、Java に加えて、非標準の追加パッケージをまとめた「ubuntu-restricted-extras」もある。  
また、デフォルトで利用できる「openjdk」パッケージは日本語フォントがうまく表示されない・画面表示がおかしい・アプレットが期待通りに動作しないなど、Java 関連の互換性に微妙な問題がある。

ありうる。そのような場合は、Partner リポジトリにある Sun 純正の Java パッケージを利用するのがいい。「システム」・「システム管理」・「ソフトウェア・ソース」を開いて、「他のソフトウェア」タブにある Partner リポジトリの設定を有効にしよう。その上で、「sun-java6-jre」「sun-java6-plugin」「sun-java6-fonts」の3つのパッケージをインストールすればインストールは完了だ。ただし、10.04 では、インストール後に、左の操作を行う必要がある。

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

→ダウンロード速度も含めて、進捗がステータスバーに表示されている。

## xul-ext-downloadstatusbar



## xul-ext-notify

←NotifyOSDでダウンロード完了が報告される様子。downloadstatusbarと組み合わせると便利だ。

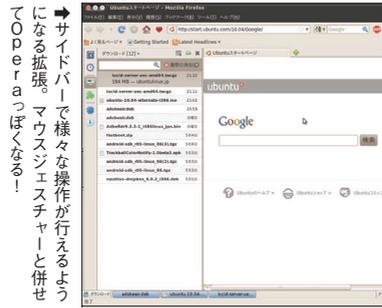
「プラグインでFirefoxを拡張！」  
Firefoxのウリは「多くの拡張がある」こと。Windows版などと同様に、Firefox内からアドオンをインストールもできるが、拡張のうち特にメジャーなものは、Ubuntuのパッケージとして準備されているので、ソフトウェアセンターからインストールするといいだらう。「xul-ext」で検索すれば簡単に見つかる。

## xul-ext-mozgest



↑Firefoxをマウスジェスチャーで操作できる。右クリックしながら図形を書くとタブが増えたり、なんてことがカンタンに！

## xul-ext-all-in-one-sidebar



→サイドバーで様々な操作が行えるようになる拡張。マウスジェスチャーと併せてOperaっぽくなる！

が、「xul-ext-downloadsstatusbar」だ。これは「ステータスバーにファイルのダウンロードの進捗を表示する」もの。  
また、「xul-ext-notify」という「ダウンロードの完了などをNotifyOSD経由で表示する」拡張もある。Ubuntuデスクトップとの統一感を重視する人にオススメだ。「xul-ext-all-in-one-sidebar」は、標準で利用できる履歴やブックマーク一覧だけでなく、インストールされてある拡張の一覧・これまでダウンロードしたファイル・ページの情報や、ページの縮小表示などに、さまざまなものをサイドバーに表示しっぱなしにできる。

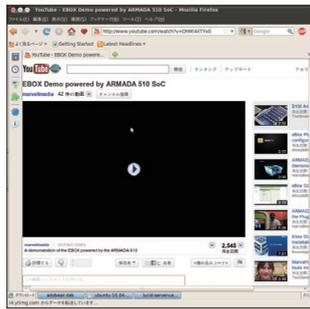
## パイプライン設定の変更

```
network.http.pipelining : trueに変更
network.http.pipelining.maxrequests : 8に変更
network.http.proxy.pipelining : trueに変更
```

↑パイプライン設定を変更することで、対応しているサーバーが相手であれば高速に処理が行われるようになる。

→クリックするまでFlashコンテンツが実行されなくなる。ネットブックのような非力な環境にオススメ！

## xul-ext-flashblock



「チューニングして高速にしてみる！」  
ネットブックなどの非力な環境では、Flashがふんだんに使われたページを開くと、非常に重くなることもある。「xul-ext-flashblock」を入れておこう。これを入れると「クリックするまでFlashコンテンツは表示しない」という動作になる。これで一気に軽くなるはず！  
また、Firefoxは、アドレスバーに「about:config」と入力することで、細かいチューニングを行える。左のように「pipelining」に関わる設定を変更しておくことで、画像満載のページを開く時に少しだけ高速になってくれる。

## PPAを追加



↑「端末」を開いて、「sudo add-apt-repository ppa:chromium-daily/ppa; sudo apt-get update」を実行してリポジトリ設定を追加。PPAは更新が圧倒的に多いので、追加するのがオススメ。

「Chromiumも使ってみよう！」  
Firefoxに飽きたらGoogleが発のブラウザ、Chromiumを使ってみよう。Firefoxに比べると超スピードで動作する。ブックマーク等は初回起動時にFirefoxのものを読み込んで、自動的に設定してくれるようになってるので、乗り換えもカンタンだ。  
なおARM向けUbuntuでは

## Ubuntu 10.04 Standard Apps Chromium



↑GoogleのChromeのオープンソース版ブラウザ。使い勝手はほぼ同じだ。

## Chromiumブラウザ



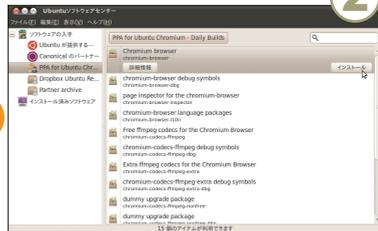
↑テーマやエクステンションはChromeと同様に使える。

## 日本語用ファイルも



↑さらに「chromium-browser-110n」を追加インストールすることで日本語メニューに。

## インストール



↑ソフトウェアセンターを開いて、「chromium-browser」をインストール。

近い将来Chromiumが標準になる。通常のUbuntuでも、定期的に「FirefoxからChromiumにしない？」という議論が行われていたりもする。未来の標準ブラウザはChromiumになるかもしれないのだ。



↑ Ubuntu デフォルトの日本語入力システム。

# 日本語入力の基本システムを知る!!

## 「Ubuntuでの日本語入力のしくみ」

日本語入力、アプリケーションの橋渡しになったり、ユーザ・インタフェースを提供するインプットメソッドと、キーボードから入力した文字列を漢字などに変換する変換エンジンからなる。これは、本来正しくは両方併せてインプットメソッド（IM）と呼ばれるが、話を簡単にするために両者を分けて説明する。Ubuntu 10.04が採用しているインプットメソッドはIBus（アイバス）で、変換エンジンはAnthy（アンシー）だ。そして、両者を繋ぐためにIBus-Anthyが使われている。

Anthyにも個人辞書設定ツールはあるが、コマンドラインベースであり使い勝手がよくなく、GUIのAnthy辞書管理（霞）が、日本語Remixからインストールすると標準で使えるようになっている。起動はWindowsと同じく、「半角/全角」キーか、「Ctrl」+スペースだ。

## 「日本語入力メソッドの設定」

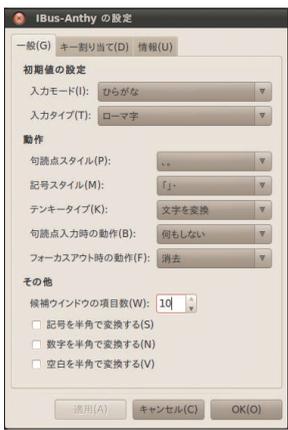
IBusはIBusの設定とIBus-Anthyの設定を別に行うようになっていて、IBusの設定変更は画面右上のキーボードアイコンをクリックして「設定」をクリックする。とはいえ、変更することは特にないだろう。

IBus-Anthyの設定は、ツールの「i」アイコンをクリックする。「一般」タブでは、かな入力派の人は「入力タイプ」を「かな」にするといいたいだろう。テンキーから入力する数字は常に半角にしたい場合は、「テンキータイプ」を「テンキーコードのまま」にするといいたい。「キー割り当て」タブでは、その名のとおりキーの割り当てを変更する。ATOKとWnn（うんぬと読む）ユーザ向けのプリセットが用意されているほか、自分の好みにカスタマイズできる。

## ツールバー



↑ IBus そのものの設定はここから行う。



## IBus-Anthyの設定

← IBus-Anthy の設定の一般タブ。全体的にややマニアックな設定なので、あまり変更するところはないかもしれない。



## IBusの設定

← 通常は変更する必要はないが、候補ウィンドウを横にしたたり、ツールバー（言語パネル）の非表示などを選択できる。



## Anthy辞書管理

→ Anthyの個人辞書は Anthy 辞書ツールでカスタマイズできる。ツールバーの辞書アイコンをクリックすると[辞書を編集する]と[単語を追加する]の2項目が表示される。[辞書を編集する]メニューでは、単語の追加・削除・変更が可能だ。



## [キー割り当て]を活用

→ [キー割り当て]タブは、特にATOKユーザにはうれしい。それ以外のユーザでも、活用したい機能。



## Anthyの辞書に単語追加

← こちらは [単語を追加する] メニュー。連続で単語を追加したい場合は、このモードが便利だ。

## 新しい変換エンジン MoeZc に注目!

116ページからのソフト紹介で、Anthyよりも新しく、変換率がいいMoeZc（もずく）という変換エンジンのインストーラ方法が紹介されているので、Anthyで物足りなく感じている場合は参考にしてインストールするといいたいだろう。MoeZcはGoogle日本語入力用のオープンソース版で、辞書がIPAadicという辞書になっているなどいくつかの差異はあるもの、おおむね使い勝手は同じだ。10・10ではもっと簡単にインストールできるようになるだろう。

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

Rで保存される。WindowsならCR+LF、LinuxならLF、旧Mac OSならCRで保存される。

「対応文字コードを追加しよう」  
 geditで気をつけなければいけないのは文字コードの問題だ。特に日本語環境だと、最低でもUTF-8/UC-JP/Shift-JIS (CP932)を自動判別して欲しいところ。残念ながら、インストール直後の状態だとUTF-8以外の自動認識はできないが、認識失敗のダイアログから簡単に文字コードを追加できる。自分が必要な文字コードは一通り追加しておくといい。逆に、ISO-8859-15などは日本語環境ではまず必要ないので、削除しても問題ない。現在開いているファイルの文字コードを確認したい場合は、タブにカーソルを合わせればいい。もちろん任意の文字コードでファイルを保存することも可能だ。「別名で保存」して文字エンコーディングを設定しよう。

## 改行コードも指定できる



↑ Ubuntu 10.04 からは改行コードも指定できるようになったので、Windowsのメモ帳で開くと一行で表示されてしまう悲しさともおさらばだ。

## 文字コードを追加しよう!



↑ WindowsのShift\_JISはCP932という扱いになる。また、順番も重要なので、よく使うものを上に持ってくるようにしましょう。

## 自動認識に失敗したら……



↑ 自動認識に失敗したら文字化け状態になるのではなく、このようにエラーメッセージが表示される。慌てずに、対応する文字コードを追加しよう。

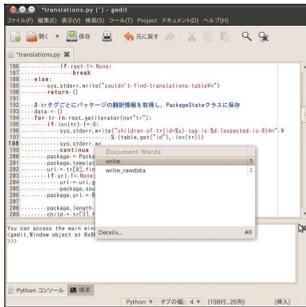
## 検索と置換はワンタッチで



↑ 正規表現は使えないが、改行コードやタブ文字はそれぞれ“\n”、“\t”で検索できる。

「エディタとしての基本機能を知る」  
 geditはUbuntu標準のテキストエディタだ。普通に文章を編集するのはもちろんのこと、構文解析による色付け、C/Pythonを使った強力なプラグイン機能によってコマンドの実行やマクロの追加、果てはTwitterへの投稿までできてしまう。例えばプログラミンなどで必須のシンタックスハイライトは最初から有効化されている。文字のタブ幅はステータスバーで設定できる。検索や置換はツールバーの虫めがねボタンから。これも直感的な操作なので迷うことはないだろう。文字数をカウントしたい場合は、「ツール」→「ドキュメントの統計情報」を使う。

## Python IDEとして



↑ 補完候補が表示されている画面。ボトムペインにはPythonコンソールや端末を表示しているので、geditだけですべてできるのだ。

## プラグインはココでゲット!

### ● gedit Pluginリスト

<http://live.gnome.org/Gedit/Plugins>

### ● Gedit Developer PluginsのPPA

<https://launchpad.net/~sinzui/+archive/ppa>

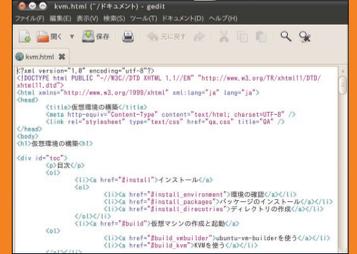
「プラグインで自分好みにカスタマイズ!」  
 geditは、C/Pythonを使って簡単に機能拡張できるプラグイン機能を備えている。プラグインの設定は「編集」→「設定」→「プラグイン」で行える。既にいくつかのプラグインが有効化されているのがわかるだろう。使用頻度の高いテンプレートを挿入する「コード・スニペット」や「タグの一覧」を使えば、HTMLやプログラムの作成効率が劇的に改善する。「外部ツール」はいわゆる簡易マクロ機能で、シェルスクリプトを使った一括処理などを登録することができる。もちろん標準のプラグイン以外にも、便利なプラグインがたくさんある。「gedit-plugins」パッケージには

GNOMEで公式配布しているプラグインが一通り揃っている。開いているファイルの状態を保存する「セッションの保存」、ファイルに複数のしおりをささむことができる「ブックマーク」などだ。サイドパネルのプラグインの一覧も必見だ。数が多くて紹介しきれないが、配布されているファイルを「/usr/share/gedit/plugins/」に展開するだけでインストールできるので、気軽に試してみたい。なお、Pluginリストで紹介されている、ctagsにも対応したClass Browserや、正規表現に対応した検索と置換にBazaar対応などは「Gedit Developer Plugins」のPPAから一括して入れられる。geditをIDE(統合開発環境)化したいなら、まずはこれを入れるといいだろう。

# 統合開発環境にもなるエディタ

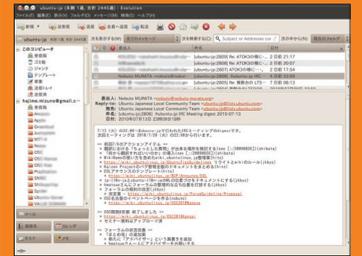
Ubuntu 10.04 Standard Apps

## テキスト・エディタ gedit



↑ Ubuntu標準のエディタ。起動は[アプリケーション] - [アクセサリ] - [テキストエディタ]。

# Evolution



↑メール、スケジュール、ToDo リスト、アドレス帳といったデータを統合管理できる。

## 「個人情報管理ツールの決定版」

「Evolution」はアプリケーションメニューの「オフィス」にカテゴライズされていることからわかるように、単なるメールではない。メール以外にも、カレンダー、アドレス帳、タスク管理機能などを備えた、高機能な個人情報管理ツール (PIM) なのだ。メールとしては一般的な「Microsoft Outlook」に似た3ペインのインタフェースを持っており、Microsoft Exchange Server に接続することもできる。初回起動時にはメールアドレスの設定を行うウィザードが表示される。一般的なメールソフトと同じように指示に従っていけば設定は完了するので、迷う部分はないだろう。特に Gmail のアカウントを設定する場合は、メールアドレスを入力するだけでサーバ名を自動で設定してくれるため、ユーザ名とパスワード以外を入力する必要はない。たったこれだけで Evolution から Gmail の利用を始められるぞ。

左のペインにはメールの他に「連絡先」、「カレンダー」、「タスク」

# ただのメールじゃない！ 統合情報管理ツール

「モ」という機能が用意されておりここから各 PIM 機能にアクセスすることができる。「タスク」には現在抱えている ToDo を、「メモ」には文字通り任意のメモを蓄えておくことができ、「カレンダー」では本日のスケジュールに加え、タスクとメモを並べて表示できる。これによって「今自分が何をやるべきか」が一目でわかるようになっていく。

Evolution は優れた PIM ソフトだが、日本語環境でメールを使用する際にはいくつかの問題も存在する。たとえばメール本文をデフォルトで UTF-8 にしてしま

うため、受け取る相手によってはメールを読めない可能性があるし、添付ファイルの日本語ファイル名やメールサブジェクトが文字化けしてしまうことがあるのだ。なのでメールソフトは Sylph へed や Thunderbird といった他のアプリを使用することも検討してみよう。

## アカウントの設定



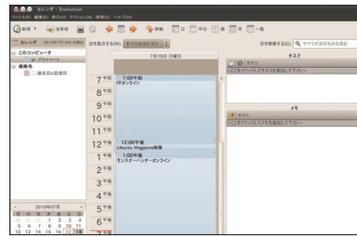
→通常ならば送受信に使うサーバのアドレスを自分で入力する必要はあるが、Gmail を使う場合は自動で設定される。

## やるべきことを登録



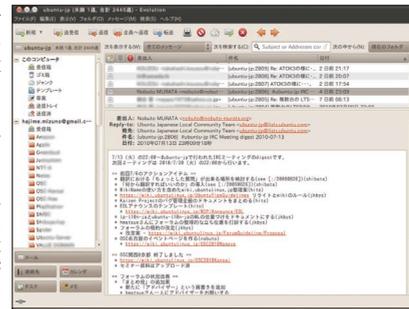
↑タスクには「やる必要があること」を、開始日、現在の状況、優先度といっしょに登録しておこう。

## スケジュールも一目でわかる



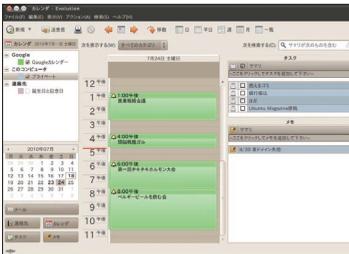
↑30分刻みでスケジュールを登録できるカレンダーに加え、積まれているタスクとメモが並んで表示される。

## Outlookとほぼ同じ外観



↑フォルダツリー、メッセージの一覧、メッセージ本文がそれぞれ分けられた3ペインのインタフェース。

## 予定とタスクの表示



↑Google カレンダーの内容と、ローカルのカレンダーやタスクが同時に表示されるぞ。

## カレンダーを追加しよう



↑種類を Google にして、ユーザ名と色を指定するだけで Google カレンダーを取り込めるぞ。

Evolution 上から Google カレンダーを直接操作するのがおすすめだ。「新規」→「カレンダー」で新しいカレンダーの追加ダイアログを呼び出したら、種類を「Google」に指定して、Google アカウントのユーザ名を入力しよう。これでカレンダーの一覧に Google カレンダーが追加され、Evolution 上では他のカレンダーとマージして予定が表示されるぞ。複数追加も可能だ。

## 「Google カレンダーと連携させよう」

## 新着フィードを読む



↑メールと同じようにサイドペインに購読しているフィードの一覧と未読数が表示される。

## RSSフィード機能を追加



↑設定画面の [News and Blogs] にフィードを追加しよう。OPML でインポートも可能。

「Evolution-rss」パッケージは、Evolution に RSS フィードを読む機能を追加するプラグインだ。設定を開いて「News and Blogs」という項目にフィードを追加しておけば、メールを読むように新着の RSS フィードを読めるようになる。フィードは OPML 形式のファイルをインポートすることも追加可能なので、他の RSS リーダーからの移行もカンタンだ。

## 「プラグインでRSSフィードをチェック！」

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

日記のような使い方もできる。

メモへのリンクが作成できる。また、プラグインを有効にして簡易日記のような使い方もできる。

作成したメモを同期する機能を持つているので、Ubuntu One (90ページ)に直接同期したり、ローカルフォルダとの同期機能を組み合わせればDropboxなどを使って同期できたりもする。Tomboyのメモと連携するアプリケーションはいくつかあり、タスク管理ソフトの「Getting Things GNOME!」はタスクにTomboyメモへのリンクが作成できる。

「メモの同期機能を  
活用したい！」

## Ubuntu 10.04 Standard Apps Tomboy



↑熱狂的ファンのいるメモツール。Ubuntu Oneとの連携もあり、注目のアプリだ。

### Tomboyのメモ



←これがTomboyで作成したメモだ。メモの中に他のメモのタイトルを入れるとリンクとして機能する。

### 画面右上からもアクセス



←画面右上に表示されるTomboyアイコンからもメモを作成したり、メモにアクセスしたりできる。[Alt] + [F12] キーでも呼び出せるぞ。

### メモの装飾機能



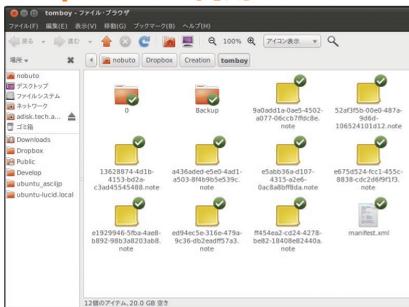
←ツールバーの「文字の種類」をクリックすると使用できる装飾の一覧が表示される。装飾にはショートカットキーが設定されているので、これを覚えるとサクサク適用できるぞ。

### 簡条書きでメモを取る



←簡条書きを使う場合は、行頭に「-」を入力して項目を入力しよう。エンターキーを押すと簡条書きに変換される。

### Dropboxでも同期できる



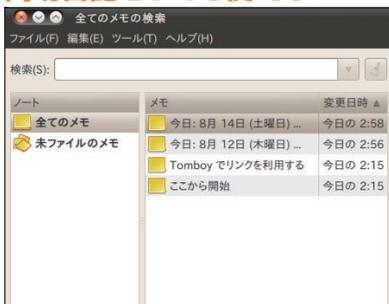
←Tomboyの設定画面ではUbuntu Oneでの同期が選べるが、同期先に「ローカルのフォルダ」を選びDropbox配下のフォルダを指定しておくことでDropbox経由での同期もできる。

### ノートでまとめる



←ツールバーの「ノート」をクリックして新しいノートを作成すると、ノートにメモをまとめて管理できるようになる。

### 簡易日記としても使える



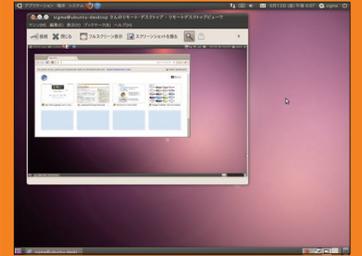
←Tomboyの設定から「Note of the Day」というプラグインを有効にしておくことで「今日:○月○日」といったメモが自動で作られる。項目ごとより日付ごとに管理したい場合に向いている使いかた。簡易日記として使うのもいいだろう。プラグインの設定ではこのメモにテンプレートが設定できる。

### もっと素早くメモを取ろう



←初期状態では「ここから開始」というメモを開くのに[Alt] + [F11]が割り当てられているが、あまり役に立たない。「新しいメモを作成する」にこのホットキーを割り当てて思いつたときにすぐメモが取れるようにしておこう。

連携アプリと合わせ技で強力メモに！



↑ Windows や Mac のデスクトップも操作。設定もカンタンだ。

# どんなOSでも操作できる魅力

「操作はやや重いが、どんなOSともつながる」

「リモートデスクトップビュー (Vinnagre)」は、VNCクライアントと呼ばれる、遠隔地にあるPCを操作するアプリだ。操作される側(リモート)にはVNCサーバが必要になる。VNCサーバとクライアントは様々なプラットフォームに移植されているため、Linux・Windows・Ma

「リモートデスクトップビュー (Vinnagre)」は、VNCクライアントと呼ばれる、遠隔地にあるPCを操作するアプリだ。操作される側(リモート)にはVNCサーバが必要になる。VNCサーバとクライアントは様々なプラットフォームに移植されているため、Linux・Windows・Ma

「リモートデスクトップビュー (Vinnagre)」は、VNCクライアントと呼ばれる、遠隔地にあるPCを操作するアプリだ。操作される側(リモート)にはVNCサーバが必要になる。VNCサーバとクライアントは様々なプラットフォームに移植されているため、Linux・Windows・Ma

「リモートデスクトップビュー (Vinnagre)」は、VNCクライアントと呼ばれる、遠隔地にあるPCを操作するアプリだ。操作される側(リモート)にはVNCサーバが必要になる。VNCサーバとクライアントは様々なプラットフォームに移植されているため、Linux・Windows・Ma

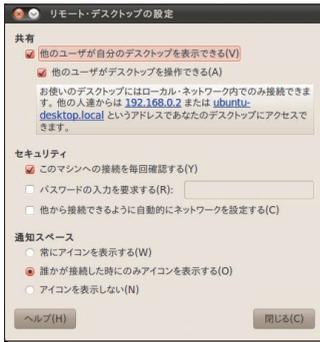
「リモートデスクトップビュー (Vinnagre)」は、VNCクライアントと呼ばれる、遠隔地にあるPCを操作するアプリだ。操作される側(リモート)にはVNCサーバが必要になる。VNCサーバとクライアントは様々なプラットフォームに移植されているため、Linux・Windows・Ma

「経路が暗号化されていない」「デスクトップ画像を転送する形になる」ために、それなりの帯域幅を消費する(インターネット越しに利用するには注意深く設定する必要がある)といった制限もある。あくまで高速なLAN内部で使用されるのだと割り切っておいた方がいいだろう。

Ubuntuには「vino」というVNCサーバが最初からインストールされている。そこで操作される側は「システム」「リモートデスクトップ」から、あらかじめvinoで外部からの接続を許可しておこう。ここでリモートのIPアドレスが表示されるので、覚え

「リモートデスクトップビュー (Vinnagre)」は、VNCクライアントと呼ばれる、遠隔地にあるPCを操作するアプリだ。操作される側(リモート)にはVNCサーバが必要になる。VNCサーバとクライアントは様々なプラットフォームに移植されているため、Linux・Windows・Ma

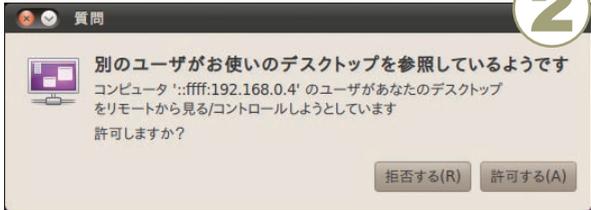
「リモートデスクトップビュー (Vinnagre)」は、VNCクライアントと呼ばれる、遠隔地にあるPCを操作するアプリだ。操作される側(リモート)にはVNCサーバが必要になる。VNCサーバとクライアントは様々なプラットフォームに移植されているため、Linux・Windows・Ma



## 1 リモートの準備

「表示できる」に加えて「操作できる」もチェックすると、外部から接続・操作できるようになる。

## ローカルの準備



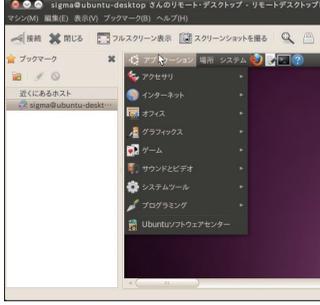
↑ ホスト名には図1で確認したIPアドレスかホスト名を入力しよう。

## リモートで許可する



「1で「毎回確認する」をチェックしていると、接続リクエストがあった場合にこのダイアログが表示される。

## デスクトップが表示された



「リモート側の許可が得られると、リモートのデスクトップが表示・操作できるようになる。



EmpathyはIM用の経路を使ってVNC接続を行うので、ネットワーク設定に詳しくなくても大丈夫だ。

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

「多少のアニメーション効果なら普通に表示」

「ターミナルサーバクライアント (tsclient)」は、RDP (リモートデスクトッププロトコル) を使った遠隔操作アプリだ。RDP は Windows の「ターミナルサーバスクリプトデスクトップ」として使われている技術で、リモート側の PC にログインした上で、デスクトップの表示や操作できるのはもちろんのこと、リモートのサウンドをローカルで再生するといった機能も備えている。操作も VNC に比べて軽いので、リモート先が Windows なら、リモートデスクトップビューワよりもこちらを使った方がいだろう。

VNC と異なるのは、リモートにログインすることが前提となることだ。よって、リモートデスクトップビューワで紹介した、デスクトップ共有のような機能は使えない。ちなみに「desktop」は、リモートアシスタンスには対応していないが、多少のアニメーションなら普通に表示されるので、VNC よりもストレスなく使えるだろう。

## あの名作ゲームができる



↑これはリモートの XP に接続した状態。フリーセル程度なら何の違和感もない。

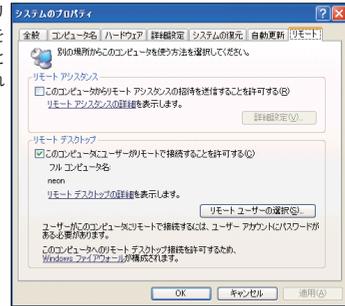
## Ubuntu側の準備



→システムのプロパティで「リモートデスクトップの設定」を開き「リモートで接続することを許可する」にチェックを入れよう。

←ややこしいことに、プロトコルは RDP が新しい v5 を、RDPv5 が古い v4 を使用する。とりあえず無印の RDP を選ぶようにしよう。

## Windows側の準備



「リソースの共有で Win に仕事をさせる」

デスクトップ画像を転送するだけの VNC と異なり、RDP にはサウンドやディスクやプリンタといったリソースの共有機能が存在する。よって、ローカルにある「Windows」でしか再生できない動画」をリモートで再生させながらローカルで視聴するといった荒技が使えるのだ。ローカルディスクは、ネットワークディスクの一種としてリモート上に表示されるので、ファイルのやりとりも簡単だ。ちなみに、クリップボードの共有機能もあるのだが、環境によって動いたり動かなかったりするようだ。動かない場合は、ターミナルサーバクライアントの起動画面でいきなり接続するのではなく、設定を「rdp」という拡張子を付けて「別名で保存」しよう。そのファイル名をテキストエディタで開き、「clipboard:CLIPBOARD」という行をファイルの最後に追加する。その「rdp」ファイルを読み込んで接続すれば、クリップボードの共有を使えるようになる可能性がある。

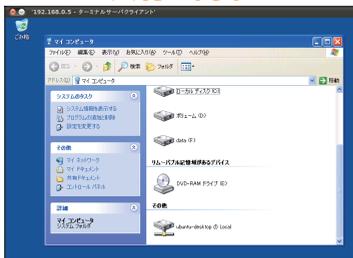
なお、ここでは RDP の機能のみを紹介したが、ターミナルサーバクライアント自体は VNC や XDMCP にも対応している。VNC なら「tightvncviewer」、XDMCP なら「xnest」といったバックエンドを追加しよう。

## 動画も見られなくもない



↑ただし、描画が追いついていないような表示になるので大きな期待は厳禁。

## ファイル共有も簡単



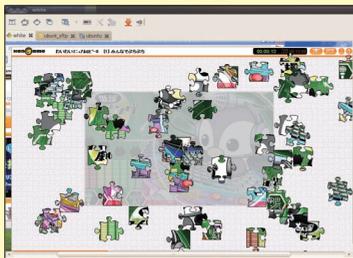
↑ローカルディスクドライブの設定を行えば、ローカルのディスクをリモート上でも共有可能。

## リソースの設定



←VNC と大きく異なるのがこの部分だ。

## Remminaの画面



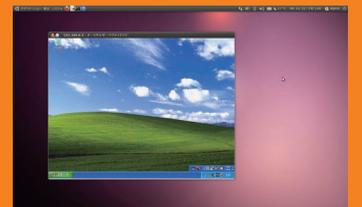
↑Vinagre のタブ機能と tsclient の RDP のいいとこ取りをした、次世代リモートデスクトップ。

「FreeRDPとRemmina」

Maverick (Ubuntu 10.10) では、RDP 機能をビューワの方に統合し、ターミナルサーバクライアントは標準ではインストールされなくなる予定だ。原稿執筆時点で、既にビューワへの RDP 実装が完了している。若干設定方法が変わる可能性はあるものの、バックエンドには「desktop」が使われているので、ここで紹介した機能はそのまま使えるので安心してほしい。

さらに最近新しい RDP 実装である「FreeRDP」と、それを利用した RDP/VNC/NX/XDMCP クライアントである「Remmina」(ppa:lyz/ppa) が人気を集めている。洗練されたインタフェース、強力なタブ管理機能、そして何より開発が活発であることから、新たな標準アプリという声もあがっている。

## ターミナルサーバクライアント



↑リモートデスクトップビューワとの違いを押さえて、Windows 操作に役立てよう！

# Windowsを遠隔操作するなら「FreeRDPとRemmina」



↑フリーソフトウェアなのに高性能！ オフィススイートがデフォルトでUbuntuには付属しているのだ！

# 拡張機能でオフィスもパワーアップ!!

## OOoの基本構成

今更必要ないかもしれないが、簡単な概要から説明する。OpenOffice.org (以下OOoと略す) はサン・マイクロシステムズ(現・オラクル)が主体となって開発しているオフィススイートだ。バージョン1がリリースされたのが2002年で、現在の最新バージョンは3.2.1だ。Ubuntu 10.04に収録されているのは3.2.0だが、3.2.1とそれほど大きな違いはない。OOoは「StarSuite」という名前で製品版として販売されているが、オラクルによる買収によって「Oracle Open Office」というナントモカントモな製品名に変更された。

UbuntuはもちろんWindowsやMac OS Xでも動作するマルチプラットフォームアプリケーションだ。そのうえ、オープンソースで利用は無償ということもあり、自治体や企業での導入が進んでいることをご存じの方もいらっしゃる。Ubuntuが採用しているOOoは、OracleがリリースしているOOoのソースに、ノベルが

リリースしているパッチ(Go-OO)が適用され、細かな違いがある。

OOoはオフィススイートということで、左の表のとおり複数のアプリケーションからなる。「Base」は標準でインストールされていないので、使用したい場合は「Ubuntuソフトウェアセンター」を起動し、「オフィス」の「OpenOffice.org Database」からインストールする必要がある。「Base」はJava VMがないと動作しないので、芋づる式にインストールされる。

## UbuntuでのOOo基本構成

ジャンル	名称	メニュー名	初期導入
ワードプロセッサ	Writer	Word Processor	○
表計算	Calc	Spread Sheet	○
プレゼンテーション	Impress	Presentation	○
ドローツール	Draw	Drawing	○
データベース	Base	Database	×
数式	Math	Formula(注)	○

注: Formula はメニューには表示されないが、インストールはされている

## 「真つ先にインストールしたい拡張機能」

OpenOffice.org 日本語ユーザー会が提供する「日本語環境改善拡張」は、OOoを活用するのであれば何をさておいてもインストールしておきたい。これは、たくさんのテンプレートやクリップアートを収録し、かつさまざまな設定を追加するものだ。

まず収録されているテンプレートはIPAフォントを使用するもので、最初に「Ubuntuソフトウェアセンター」から「Font」-「Japanese OpenType font set, IPAfont」をインストールする。似たような名前のものがたくさんあるので、間違えないようにしよう。

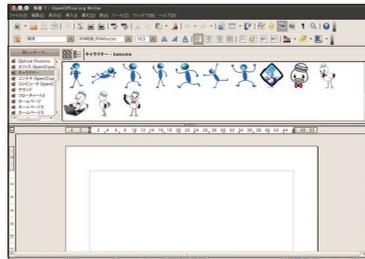
日本語環境改善拡張は「sourceforge.jp」([http://sourceforge.jp/projects/openoffice-docs/releases/package\\_id=9481](http://sourceforge.jp/projects/openoffice-docs/releases/package_id=9481))からダウンロードする。最新版は「DefaultSettingsForJapanese.oxt」の1.2だ。インストールは、OOoを起動して「ツール」-「拡張機能マネージャー」をクリックする。その後「追加」をクリックして、ダウンロードした「DefaultSettingsForJapanese.oxt」を指定する。あとはOOoを再起動すれば適用される。追加されたクリップアートは「ギャラリー」に登録され、テンプレートは「テンプレートとドキュメント」から呼び出せる。

## Impressの背景も



↑日本語環境改善拡張で「洗好み」「瑠璃色」以外にもたくさん増えたテンプレート(プレゼンテーション背景)。

## ギャラリーで確認



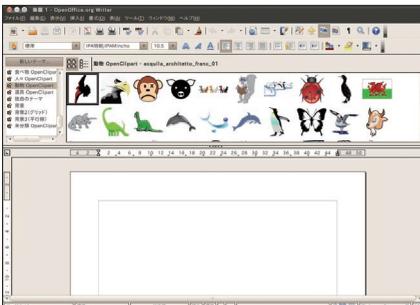
↑日本語環境改善拡張で増えたクリップアート。

## 拡張機能のインストール



↑インストールする拡張機能を選択すると、ライセンスが表示され、同意しないとインストールできない。

## 膨大な数が追加される



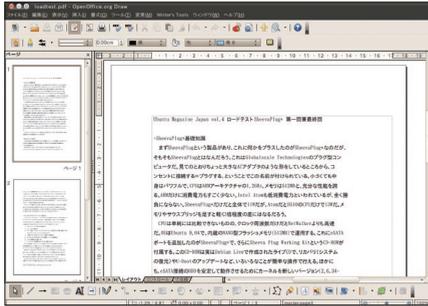
← OpenClipArt で増えたクリップアート。日本向けのドキュメントに合うものを厳選したいところ。

## 「クリップアートをさらに増やすには」

OpenClipArtという、パブリックドメインのクリップアートが配布されているサイトがある。著作権が存在しないため、自由に使用できる。便利なおことに、Ubuntuソフトウェアセンターの「オフィス」-「オープンクリップアート」(下から2番目にある)からインストールできる。ちなみに、「日本語環境改善拡張」にもOpenClipArt由来のクリップアートが収録されているので、これでは足りない、という場合にインストールするといいい。とにかく数が多く、探すだけでも結構大変だ。

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

## Importing PDF documents



◀シンプルなPDFを読み込ませてみたが、すべてDrawで読み込まれ、行末もガタガタになり残念。

● OOo extensions for Importing PDF documents  
その名のとおりのPDFをインポートし、再編集できる。  
● OOo extension for size-efficient presentation  
Impressのファイルを、画像の解像度を落とすなどしてファイルサイズの縮小を行う。  
● OOo Impress extension for a separate presenter's console  
デュアルディスプレイの設定を行うと、発表者用のディスプレイだけに経過時間や前後のスライドが表示され、効果的なプレゼンテーションが行える。

「リポジトリにある拡張機能を追加」

OOoの拡張機能のいくつかは、Ubuntuソフトウェアセンターの「システム」からインストールできるので試してみよう。

## a separate presenter's console



◀スライドショーの設定に「複数ディスプレイ」という項目が増える。なお、筆者がテストした限りだと、Netbook Editionではうまく動作しない。

## size-efficient presentation



◀Impressのファイルの縮小は、ウィザード形式で行う。ファイルをメールに添付して再配布する場合などに便利だろう。

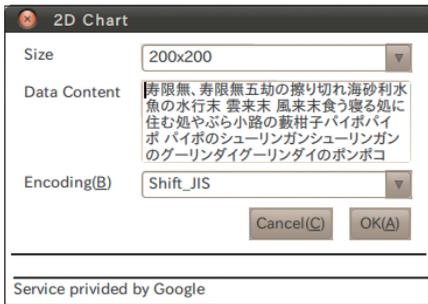
## OOo用のお役立ちテンプレート集

**OpenOffice.org Templates**  
<http://templates.services.openoffice.org/ja>

**Modern Impress Templates**  
<http://extensions.services.openoffice.org/ja/project/modern-impress-templates>

**Professional Template Pack II - English**  
[http://extensions.services.openoffice.org/ja/project/TemplatePack\\_II](http://extensions.services.openoffice.org/ja/project/TemplatePack_II)

◀「そのほかおすすめの拡張機能」  
OOo用の拡張機能は、「OpenOffice.org repository for Extensions」(<http://extensions.services.openoffice.org/ja>)で配布されている。量が多い上に世界中の言語のものが集まっているため、いくつかを左表にピックアップした。これらはいずれもテンプレート集だ。テンプレートはいくつあっても困るものではないので、TPOに応じて使い分けよう。日本語向けの拡張機能としては、一太郎ファイルフィルタがある。対応OSの関係でWindowsで使う必要があるのが少々残念だが。  
『OpenOffice.org Templates』(<http://templates.services.openoffice.org/ja>)というサイトもあり、言語ごとにテンプレートが分かれていて上にメニューもローカライズされているので、使いやすい。履歴書やカレンダーなどがあるが、使うばかりではなく、自分で作ったものをアップロードすることを検討するのもいいだろう。



<http://extensions.services.openoffice.org/ja/project/2DBarcode>

## Magenta 2D Barcode

◀いわゆるQRコードを作成するツール。UTF-8にも対応しているようだが、規格上Shift\_JISにしないと読み取れないだろう。QRコードは結構長い文字列も埋め込めるので、いろいろな用途が考えられる。



<http://extensions.services.openoffice.org/ja/project/pagination>

## Pagination

◀Writerでページ番号を振る場合、ちょっとしたコツが必要になる。しかし、これを使えばカンタンだ。メニューは日本語化されている。

## 日本語ユーザのための情報源

**OOo日本語プロジェクト**  
●<http://ja.openoffice.org/>  
日本での公式サイト

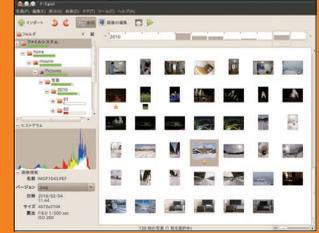
**OOo日本語ユーザー会**  
●<http://oooug.jp/>  
Q&A集など実用的コンテンツが満載

**OOo Q&A**  
●<http://oooug.jp/faq/>  
よくある質問と回答をおさめたサイト

◀「OOoに関する情報」  
OOoは巨大なソフトウェアで、少ないページで語り尽くせるものではない。よって、より多くの情報を知りたい場合の参照先をいくつか提示するので、参考にしてほしい。  
左表のほか、「Microsoft Office」からの乗り換えで疑問に思ったことは、『OOoユーザーのためのMicrosoft Office互換性研究室』(<http://oooug.jp/compat/30/>)が参考になるだろう。  
マニュアルは「オープンガイドブック OpenOffice.org 2.0 公開版」(<http://oosupport.good-day.net/ja/documents/manual/>)がPDFファイルで入手できる。タイトルどおり2.0の対応だが、今でも使える部分は十分にあるのでダウンロードして目を通すといいたいだろう。  
3.0に対応した内容のマニュアルは、「オープンガイドブック OpenOffice.org 3」(翔泳社)という書籍が発売されている。

「OOoに関する情報」

# F-Spot



↑デジタルカメラの取り込みから、ウェブアルバムへのエクスポートまで対応した写真管理ソフトウェアだ。

## 「デジタルカメラ写真をアルバムで管理」

F-Spotはデジタルカメラから写真を直接インポートできる、デジタル写真管理アプリケーションだ。インポートした写真はブラウザ領域にサムネイルが一覧表示され、サムネイルをダブルクリックすれば、その画像の編集を行える。現在のUbuntuには標準のフォトレタッチソフトがないため、写真のトリミングや修正などはここで行うのがいいだろう。

また、写真にはタグをつけられる。指定したタグを持つ写真のみを抽出することができ、ジャンルごとに写真を整理するよな場合に役立つ。

写真は「バージョン」という単位で世代管理が行われ、インポートした状態では「バージョン」は「オリジナル」のみが存在しているが、写真の編集を行うと「修正版」がバージョンに追加される。オリジナルのファイルは書き換えず、修正を行うたびに新しいバージョンが追加保存されていくので、いつでも修正前のバージョンに戻れる。失敗を恐れず編集ができるのだ。

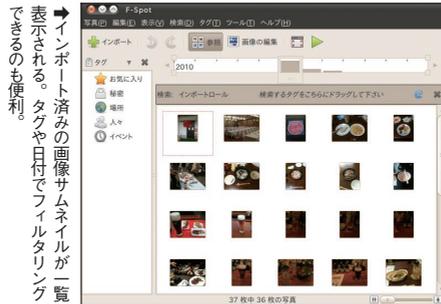
# 写真整理からオンラインアルバムまで

### 写真のインポート



↑デジタルカメラを接続してF-Spotを起動すると、写真のインポートが行われるのだ。インポート時にタグの付与が可能。

### 写真の一覧表示



↑インポート済みの画像サムネイルが一覧表示される。タグや日付でフィルタリングできるのも便利。

### 写真の簡易編集



↑色の補正やトリミングなど、画像の簡易編集機能が搭載されている。

## 「ウェブアルバムにアップロードしよう」

PicasaやFlickrといった、ウェブアルバムサービスにF-Spotから直接写真をアップロードできる。写真を選択したら「写真」→「エクスポート」からエクスポートしたいサービスを選択しよう。Flickrなら「認証」をクリックするとウェブブラウザでログイン画面が開くので、サービスにログインすればよい。Picasaの場合は「ギャラリー」の「追加」をクリックしてGoogleアカウントのユーザー名とパスワードを入力しよう。Picasaは既存のアルバム情報が取得できるので、写真を追加したいアルバムを選択しよう。「追加」をクリックしてアルバム名を入力すれば、その場で新規アルバムを作成できる。

### ウェブアルバムと連携



↑F-Spotで編集したお気に入りの写真を、直接ウェブアルバムにエクスポートできる。

## 「デジタル眼を使っている人におすすめ」

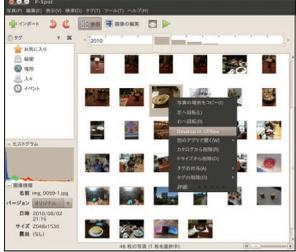
デジタル一眼レフを使ってRAW撮影を行っている場合に便利なのが、F-SpotからRAW現像ソフトである「UFRaw」を呼び出せる「Develop in UFRaw」だ。「編集」→「拡張機能の管理」の、Toolsカテゴリにある「Develop in UFRaw」を有効化しよう。現像したいRAWファイルを右クリックして「Develop in UFRaw」を選択すると、UFRawが起動され、写真を現像できる。現像結果は新しいバージョンとして保存される。

### 拡張機能の管理



↑「編集」→「拡張機能の管理」で、拡張機能の有効/無効を切り替えられる。

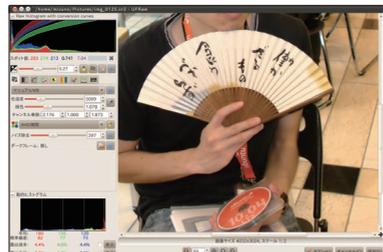
### RAWデータの現像



↑RAWファイルを右クリックして「Develop in UFRaw」をクリック。

影時にJPEGとRAWの両フォーマットで記録する機能が搭載されている。このような場合にファイルを全てインポートすると、同一の写真でもJPEGとRAWの2枚が一覧に並んで表示されてしまう。こんな場合は同じく拡張機能の「RawPlusJpeg」を使ってファイルをマージするとい。「ツール」→「Merge Raw」を実行しよう。これでJPEGファイルはRAWファイルのバージョンになり、2枚の写真が1枚にまとめて表示されるようになる。

### UFRawで作業



↑現像後、「保存」をクリックすれば「Develop in UFRaw」というバージョンが追加される。

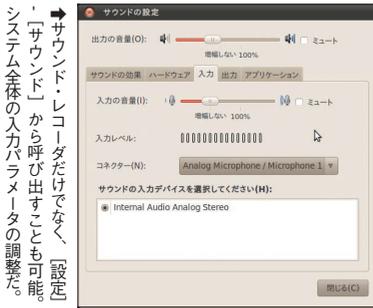
### RawPlusJpeg



↑同一の写真にRAWとJPEGが存在するような場合に有効な拡張機能だ。

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

## 音量調節ツール



→サウンド・レコーダだけでなく、「設定」・「サウンド」から呼び出すことも可能。システム全体の入力パラメータの調整だ。

基本的には「ライン入力」や「マイク入力」などの音声入力端子が付いている。これらを使って音声録音できるのが「サウンド・レコーダ」だ。

基本操作は非常に単純。赤い「○」ボタンで録音開始、「□」ボタンで録音停止、緑の「▽」ボタンで録音した音声を確認、だ。音声に問題がなければ、「ファイル」→「保存」で保存しておく。

「ファイル」→「音量調節ツールを開く」では、事前にボリュームの調整や、利用するコネクタの選択をしておく。特に音量調整は

## 「サウンド・レコーダで音声を録音しよう」

## Ubuntu 10.04 Standard Apps サウンド・レコーダ

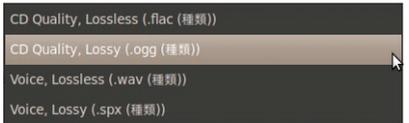


↑音声の録音に特化した、超シンプルな音声録音ツール

## コーデックと対応パッケージ

- MP3サポート**  
gststreamer0.10-plugins-ugly-multiverse
- MP2サポート**  
gststreamer0.10-plugins-ugly
- AAC(M4A)サポート**  
gststreamer0.10-plugins-bad-multiverse
- 以上のコーデック全部**  
ubuntu-restricted-extras

## 初期設定のまま



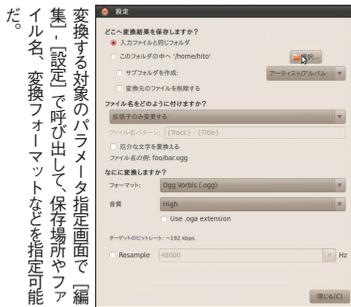
↑デフォルト状態のコーデック一覧。Ubuntu でだけ使っている分にはこれで十分なんだけど……。Ogg Vorbis や Flac に対応していないプレイヤーに入れて持ち出すには向いてない!

重要だ。「入力レベル」に、音量がゲージとして表示されるので、録音の前に「大きすぎない程度」に調整しておく。

また、「soundconverter」パッケージを別途導入しておくと、コンテンツに音声フォーマットやサンプリング周波数の変換ができる。使い方は「録音ファイルをドラッグ&ドロップする」だけだ。あとは「編集」→「設定」で変換したいフォーマットの内容や保存先を指定して、「変換」ボタンを押してしばらく待つ。

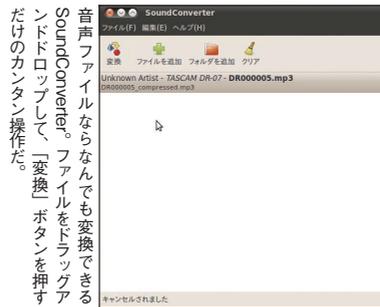
# 会話もPCで気軽にレコーダで気楽に録音しよう!

## 変換の設定



変換する対象のパラメータ指定画面で「編集」→「設定」で呼び出し、保存場所やファイル名、変換フォーマットなどを指定可能だ。

## フォーマット変換



音声ファイルならなんでも変換できる SoundConverter。ファイルをドラッグ＆ドロップして、「変換」ボタンを押すだけのカンタン操作だ。

## コーデック追加後の状態



↑MP3・MP2・AAC が追加された状態。iPod やウォークマン用に持ち出すなら、この状態にする必要がある。

## 「対応形式とコーデックの追加」

サウンド・レコーダは標準では WAV のほか FLAC (ロスレス・拡張子 flac)、Vorbis (音楽用非可逆・拡張子 ogg)、Speex (人の声専用非可逆・拡張子 spx) しかサポートしていない。iPod などのプレイヤーに持ち出す場合、MP3 や AAC で録音したい、という人も多いだろう。その場合は「コーデック」と呼ばれるソフトウェアを、左上の対応表を参考にインストールしよう。

## 「詳細なコーデック指定」

ある程度録音に詳しい人なら、MP3 などのコーデックのパラメータ調整をしたくなるだろう。そうした場合「端末」か、「Alt」+「F2」キーで「アプリケーションの実行」を開いて「gnome-audio-profiles-properties」と入力しよう。コーデック一覧が表示されるはずだ。

左下のサンプルでは「Full Quality, MP3」というプロファイルを新規作成してみた。「編集」で「GStreamer のパイプライン」の欄に「CD Quality, MP3」という既存のプロファイル設定をコピー＆ペーストし、vbr と vbr-quality の値を調整してみた。さらに、「ファイルの拡張子」を MP3 に修正して「閉じる」と新しいコー

## 高音質MP3設定を追加!



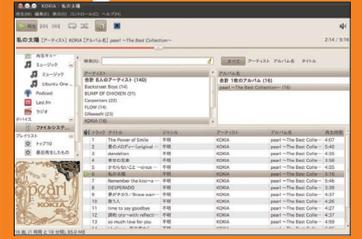
↑リッチな MP3 設定をしてみた。オプションは色々追求の余地があるぞ。

## コーデックの詳細表示



←CD Quality って何!? と思った場合はこの画面でチェックしよう。間違っても「削除」しないように注意。

デックとして「Full Quality」が追加される。既存のコーデックを選択して「編集」すると、それらの設定の確認も可能だ。気になる場合は確認しておく。



↑ ネットラジオ、Podcast、CDの取り込みからプレイリスト作成までできる高機能音楽プレイヤー。

## 「Ubuntu Oneで音楽を購入してみる」

Ubuntu 10.04では、目玉機能の一つとしてRhythmboxから楽曲を購入できる「Ubuntu Oneミュージックストア」が実装された。これは、Ubuntu OneアカウントとクレジットカードもしくはPayPalアカウントがあれば、DRMのないMP3ファイルを購入できるというもの。しかも、購入したファイルはUbuntu Oneのストレージにも同期されるため、購入した楽曲をほかのPCでも再生できる、いま流行りのクラウドサービスとなっているのだ。

ミュージックストアを使うには、Ubuntu Oneのアカウントの作成（90ページ参照）とMP3コーデカのインストールが必要だ。MP3コーデカは、Rhythmboxの初回起動時、もしくはミュージックストアのウィンドウを開いたときにインストールが促される。ちなみに、このサービスで購入できる楽曲は国によって異なる。例えばイギリスでは4大レーベルの購入も可能だが、日本だと独立系に限られている。

# 高機能音楽プレイヤーをさらに強化!!

### 決済はユーロ建てで

↑ 例は、このアルバムの場合、40曲収録の9・49ユーロ（1000円換算）だった。

### 試聴もできるぞ

↑ [Play] ボタンで試聴、[Download] で購入画面へ移動する。赤いアイコンは音質を示す。アルバム一括購入も可。

### これがトップ画面だ

↑ サイドペインでUbuntuマークをクリックすると表示される。残念ながら日本語UIはまだない。

### Rhythmboxで再生できるように!

↑ 再生は左ペインのミュージックから曲を選択、同期が完了したのから再生可能。

### 購入した楽曲の確認

↑ 「My downloads」では、購入した楽曲を確認・検索できる。購入直後はUbuntu One との同期中表示も出る。

### 購入完了!

↑ ここからもファイルをダウンロードできるが、自動的にUbuntu One と「/ubuntuone/」に同期される。ストレージサイズには注意しておこう。

### ジャケットも表示される

↑ 再生するとNotify OSDがタイトルやアルバム名、ジャケットアートを表示してくれる。

→ マウスだけで操作でき、ドラッグアンドドロップで移動できるし、それ以外の操作は図のように右クリックすればいい。

### RhythmboxのUI

「基本的な再生方法を確認しよう」

サイドペインで主に使うのは「ライブラリ」「ミュージック」だろう。特定の曲だけ流したい場合は、右クリックから再生キューに追加する。もちろんプレイリスト作成機能もあるぞ。ウィンドウ左下にはアルバムカバーが表示される。表示されない場合は、表示したい画像をウィンドウ左下のCDケース部分にドロップするといい。

### エンコード中

↑ リッピング中は左下に進捗状況が表示される。iPodへの転送状況などもここに。

→ CDやiPodを挿入/接続すると、ここに表示される。PCとのファイルのやりとりはもちろんのこと、デバイス上のファイルを直接再生することもできる。

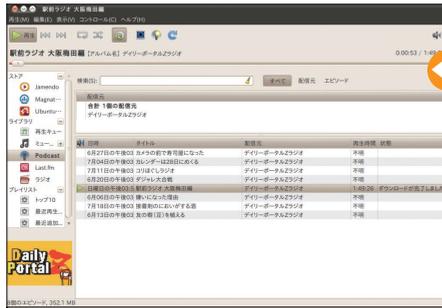
### CDやiPodはここ

「CDから楽曲をリッピングする」

CDを挿入、右クリックして「ライブラリに追加する」を選択すれば楽曲をリッピングできる。保存先はホームディレクトリ内の「ミュージック」で、標準コーデックはOgg Vorbisだ。MP3やAACを使うなら、ubuntu-restricted-extras パッケージを追加すれば「編集」「設定」「ミュージック」で変更できる。

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

## ポッドキャストの再生



## ポッドキャストの登録



↑ポッドキャストの番組は、登録用にRSSバナーを用意している。ブラウザからそのバナーをRhythmboxへマウスでドラッグすれば登録完了。

←一度登録してしまえば、配信元が更新されるたびに最新のコンテンツがダウンロードされる。

番組のRSSを左のPodcastアイコンにドラッグ&ドロップするだけで設定完了だ。うまくいかなかったら、「再生」「新しいPodcastの配信元」から、URLを直接入力しよう。コンテンツの更新や受信はRhythmboxが自動で行ってくれる。ファイルは番組ごとに「ミュージック」フォルダへ保存されるのでiPodなどへの転送も簡単だ。

「ポッドキャストを購読する場合」

まずはプレイヤーをPCに接続してみよう。対応しているデバイスであればRhythmboxを起動するか問われ、デバイス部分に表示される。あとは「ミュージック」から希望の楽曲をデバイス部分にドラッグ&ドロップするだけで転送完了だ。もし、プレイヤーを接続してもファイルブラウザには表示されないがRhythmboxに表示されない場合は、プレイヤーやSDカードなどのトップディレクトリに「.is\_audio\_player」という隠しファイルを作って、再接続してみてほしい。大抵のプレイヤーはこれで携帯音楽プレイヤーとして認識されるはずだ。

Rhythmboxは携帯音楽プレイヤーへの転送もサポートしている。専用の転送ソフトが必要ないUSBマストレージ型のものももちろんのこと、専用転送ソフトが必要なものであってもiPod/iPhoneのような有名なものであれば転送可能だったりする。

「対応していないメディアへ音楽を転送！」

Jamendoはクリエイティブコモンズライセンスのもとに、楽曲を公開しているオンラインサービスだ。曲の再生はもちろん、各楽曲はライセンスに基づいて改変や再配布もできる。Rhythmboxではカタログ表示や検索、再生のインタフェースを提供しているが、最初はカタログの取得に時間がかかるので注意してほしい。

「JamendoでCCな楽曲の取得！」

## Desktop Artプラグイン



↑ウィンドウよりも背面に表示されるので邪魔にならない。

http://live.gnome.org/RhythmboxPlugins/ThirdPartyを訪れて、自分好みのプラグインを見つけてみよう！

「プラグインで機能強化」

Rhythmboxも他のGNOMEアプリと同様、プラグインを導入することで機能を強化できる。ミュージックストアやiPod対応も、標準のプラグインという形で提供されているのだ。ウェブを検索すれば、Googleを使ったジャケットアート検索や、1曲リビート機能、携帯電話をリモコン代わりに使う機能などいろいろなプラグインが見つかるうえに、そのどれもが、「~/gnome2/rhythmbox/plugins」ディレクトリに展開するだけで簡単にインストールできる。下は、再生中の楽曲をTwitterに投稿する「TwitterPlugin」のインストール手順だ。他に「Desktop Artプラグインを追加すれば、壁紙の上に常時ジャケットアートとタイトルを表示することができる。」

## 曲名が投稿された!



↑曲名/アルバム名とアーティストのハッシュタグが投稿される。URLはlast.fmの検索ページだ。

→ Twitterアカウントの設定を行う。ブラウザが開いてPINコードが表示されるので、それを設定画面に入力しよう。また、投稿するタイミングも細かく決められる。

## プラグインの設定



## プラグインのインストール

```
sudo apt-get update
sudo apt-get install python-twitter
cd /tmp; wget http://github.com/dragon3/rhythmbox-twitter-plugin/tarball/1.02
tar zxvf dragon3-rhythmbox-twitter-plugin-1.02-0-g735bca4.tar.gz
cd dragon3-rhythmbox-twitter-plugin-1.02-0-g735bca4
make install
```

↑ Twitter Pluginはpython-twitterが必要なので注意しよう。

## Conkyに情報表示



↑ Conkyを組み合わせれば、数十行のスク립トでこんな表示も行える。

左図はデスクトップにシステム情報を表示するアプリケーション「Conky」を使って、デスクトップに楽曲情報とジャケットを表示した例だ。ジャケットアートは「~/cache/rhythmbox/covers」に保存されるので、アーティスト・アルバム名から取得している。

「端末からも操作できるRhythmbox」

Rhythmboxには「Rhythmbox-client」というコマンドが用意されていて、再生/停止/一時停止/曲送り/曲戻し/音量操作などの一般的なコントロールに加えて、再生中のタイトル/アルバム名/アーティスト/再生時間の表示といった情報の取得も行える。これを使えば、端末内部での楽曲の操作はもろろのこと、PVTG TKのようにGUIアプリを簡単に作れるライブラリを使えば、Rhythmboxコントロール用の外部アプリだって作ることができる。Rhythmboxのコンパクトモードよりも小さいインタフェースが欲しいければ、作成にチャレンジしてみるのがアリだろう。



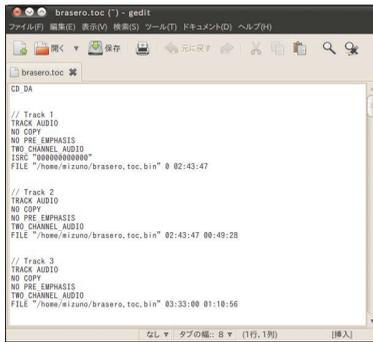
↑データ CD、音楽 CD の作成からイメージ書き込み、ディスクコピーまでこなせるのだ。

# CDの「プレイヤー」と書き込みを極める！

「CD/DVDを作成する」  
なソフトで決まり！

Ubuntu 標準の CD ライティングソフトが「Brasero」だ。PC 上のファイルをデータ CD に書き込んだり、MP3 ファイルから音楽 CD を作成することももちろん、ISO イメージの作成や書き込み、ディスクをまるごと複製することも可能だ。

データの書き込みは簡単で、CD へ書き込みたいファイルを Brasero のプロジェクトウィンドウにドラッグ&ドロップすればいい。データ用のプロジェクトであれば、ファイルを書き込んだ CD が作成されるし、音楽 CD 用のプロジェクトであれば自動的に音楽 CD として仕上げてくれるぞ。また Linux では、標準で ISO イメージファイルを実際の CD と同様に扱えるため、ISO ファイルそのものを取り扱うシーンも多い。Brasero でも、CD への書き込みと同じ操作で、ISO イメージへの書き込みが行えるようになってる。「ツール」→「消去する」からは、CD-RW のフォーマットも可能だぞ。



## tocファイル形式

←音楽 CD をイメージファイルに読み込む場合は、toc 形式で読み込まれるぞ。ディスク本体のイメージに加え、トラック情報を格納するテキストファイルが作成されるのだ。

## MP3から音楽CDを作成



←[楽曲のプロジェクト]では、書き込みたい MP3 ファイルをドロップするだけで、1 ファイルが 1トラックになった音楽用 CD を作成できるぞ。

## Windowsとの互換性



↑64文字以上のファイル名をもつファイルをデータ CD に書き込む場合は、Windows との互換性を保つためのダイアログが表示されるぞ。Windows でも使う予定のあるディスクなら、互換性のあるファイル名に変更するのがいいだろう。

## ISOファイルを書き込む



↑[イメージの書き込み]では、ISO イメージファイルから CD を作成できる。Ubuntu の ISO イメージをダウンロードしてきた場合などは、ここから CD の書き込みを行おう！

## CDをコピーするには



↑CDの複製もできる。1台のドライブで読み書きを行う場合は、CDの読み込み完了後にディスクをCD-Rに入れ替えよう。

## tocが読めないバグ



↑本稿執筆時点では、このようなエラーが発生して toc イメージへの読み込みが行えない。cdrdao パッケージのアップデートを待とう。

「ディスクのコピー」を用いて音楽 CD をイメージファイルにする場合、Brasero では toc 形式のイメージファイルが作成される。CD の読み込みが完了すると「tocbin」というイメージファイルと、「toc」 というトラック情報ファイルが作成されるはずなのだが、本稿執筆時点(2010年8月)では、エラーが発生して作成できない。「outdoor」パッケージをインストールするように表示されるが、インストールしても、この現象は解決しない。これはパッケージのバグによるもので、cdrdao の修正パッケージは遠からず提供されるはずなので、アップデートが来るまでしばらく待つてほしい。なお正常に読み込みが完了すると、toc ファイルをダブルクリックするだけで Brasero が起動し、イメージファイル を CD に書き込めるようになるぞ。

「音楽CDを「プレイヤー」には？」

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

「Pitivi」は動画も撮れるデジタルカメラなどで撮影した動画を、YouTubeなどの動画投稿サイトにアップロードする前に、簡単にカットして必要な部分だけを切り出すためのツールだ。複数のクリップを結合したり、音楽を差し替えたり、フェードを使ったりもできる。取り込みに対応しているのはTotemで再生できるフォーマットすべてなので、数多くの形式に対応している。書き出しに対応しているフォーマットは初期状態ではOGVなどごくわずかだが、コーデックが含まれている「ubuntu-restricted-extras」パッケージをインストールすると様々な形式で書き出せるようになる。

Pitiviで動画をインポートする際は、動画内の映像と音声はグループ化されているが、グループ化を解除すると別の音楽を当てられる。ライセンスとして再利用が可能な音楽(例: <http://www.archive.org/details/opensource-audio>)を利用しておしゃれな動画を作ろう。

「簡単な操作で動画編集できる」

Ubuntu 10.04 Standard Apps

Pitivi 動画エディタ



↑10.04から標準アプリに仲間入りした動画エディタ。直感的に操作できるのが魅力だ。

撮影した動画をさくさく編集する

## クリップをタイムラインに配置



←インポートしたクリップを画面下部にドラッグアンドドロップするとタイムラインに配置できる。動画の場合はプレビューが、音楽の場合は波形が表示される。

2

## クリップの取り込み



←ツールバーの「クリップの取り込み」をクリックして取り込むクリップを選択するか、画面左側のクリップライブラリに直接ドラッグアンドドロップしよう。

1

## 音声を差し替えられる



←動画に収録されている音声がグループ化されているので、差し替える場合は画面下部に表示されている「グループ解除」のボタンをクリックしよう。

4

## クリップの前後をカット



←動画の前後をカットするには、クリップの両端に表示されているクリップをマウスポインタでドラッグして長さを調節する。

3

## クロスフェードも



←フェード効果を組み合わせると、2つのクリップを配置すれば徐々に次のクリップが表示されるクロスフェード効果が付けられる。

6

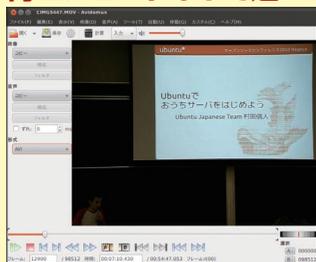
## フェード効果を使う



←動画や音声のクリップに表示されている赤線は、動画の場合は不透明度、音声の場合は音量を表している。赤線上でダブルクリックして制御点を増やし調整すると、フェードインやフェードアウトといった効果を入れられる。

5

## 再エンコードなしで速い!



↑Avidemuxを使えば画質を劣化させず前後をカットできる。

前後のカットだけならAvidemux Pitiviは非常に使いやすいビデオ編集アプリケーションだが、編集後の書き出し時に元のビデオの画質そのままではなく設定した出力形式にエンコードし直してしまう。再エンコードすることで、少し画質が劣化してしまうので、書き出しに時間がかかってしまう。ただ動画の前後をカットするだけならもっと手軽な方法がある。まずはUbuntuソフトウェアセンターから「Avidemux」をインストールする。前後をカットしたい動画を読み込んだら、シークバーを使って編集後の始点となるフレームを表示して「編集」「マーカAを設定」を選択しよう。同様に編集後の終点となるフレームに「映像」「音声」の項目それぞれで「コピー」が選択されているのを確認しよう。これで保存操作をするとPitiviで書き出すのよりも早くできる。



↑スキャンした原稿をカンタンに画像やPDFにできる、簡易スキャナユーティリティ!

## 「シートフィーダにも対応したスキャンソフト」

「Simple Scan」は、スキャナを使って図版を読み取るためのアプリケーションだ。スキャナを接続したら「ドキュメント」→「設定」を開いて、使用するスキャナと解像度、ページサイズなどを決定しよう。解像度には「テキスト」と「写真」の2つをあらかじめ設定できる。原稿の読み取りは「スキャン」ボタンをクリックするだけの簡単操作だ。「スキャン」ボタンの右側にある下向きの三角をクリックすると、「テキスト」と「写真」どちらの解像度で読み取るかの選択と、単一ページか、オートシートフィーダを使って複数のページを連続読み取りするかの選択が行えるぞ。



## 形式の指定を忘れずに

←ファイルを保存する際には「ファイルタイプの選択」をクリックして、保存するファイルの形式を選ぶのを忘れずに！これを忘れると「拡張子がPDFになったJPEG画像」のようなファイルができてしまうぞ。



## 読み取りの設定を行おう

←解像度や、ページのサイズなどをあらかじめ設定しておこう。複数のスキャナを接続している場合は、使用するスキャナも選んでおく必要があるぞ。



## トリミング範囲を指定

←読み取った原稿の一部だけを保存したい場合は、範囲を指定してトリミングを行おう。A4、A5といった規定のサイズの他にも、枠線をドラッグして任意のサイズを指定することもできる。

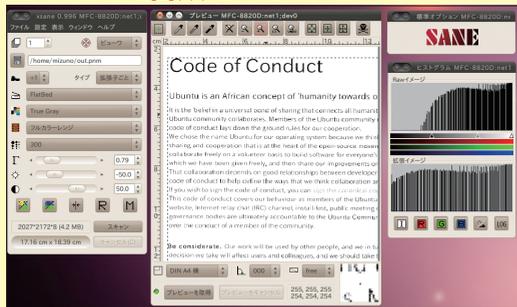


## 複数のページをまとめよう

←スキャナにシートフィーダがあれば、自動で連続読み取りを行って複数のページを含んだPDFファイルが作れる。フラットベッド型のスキャナでも原稿を手で差し替えば、連続読み取りと同じことができるぞ。

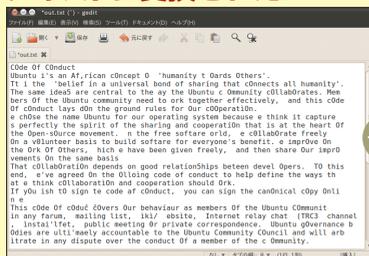
# スキャナで書類を電子化しよー!

## XSANEで書類をスキャン



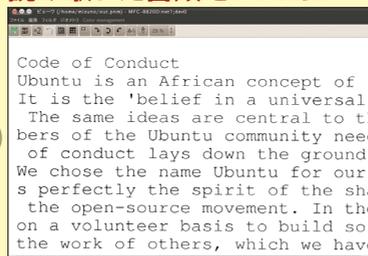
←XSANEが起動すると、プレビューウィンドウを中心に、読み取りの設定用ウィンドウとヒストグラムが表示される。読み取りの設定を調整したら、実際にスキャンを試みよう。

## テキストに変換された!



↑残念ながら認識率はイマイチだが、テキストファイルに変換できたぞ。

## 読み取った書類をOCRに



↑英文の書類はOCRにもかけられる。OCR用のプログラムはgocrだ。

「XSANEなら英文OCRも使えるぞ」スキャン用アプリケーションとしては、ほかに「XSANE」も有名だ。こちらは標準ではインストールされていないので、別途ソフトウェアセンターからインストールを行おう。まず解像度や色数などの設定を行ったら「プレビュー」ボタンをクリックしよう。読み取る図版がプレビューされるので、問題なければ「スキャン」ボタンをクリックして読み取る。読み取りが完了すると自動的にビューワが起動し、読み取り結果の詳細を確認することができる。ここで「ファイル」→「イメージを保存」を選択すれば、PNGやPDFといった形式でファイルの保存が可能だ。また「OCRテキストで保存」を選べば、英文のみだが外部プログラムを利用したOCRにかけられることができるぞ。OCRを行うには「gocr」パッケージが別途必要だ。

「ボタンをクリックして読み取る。読み取りが完了すると自動的にビューワが起動し、読み取り結果の詳細を確認することができる。ここで「ファイル」→「イメージを保存」を選択すれば、PNGやPDFといった形式でファイルの保存が可能だ。また「OCRテキストで保存」を選べば、英文のみだが外部プログラムを利用したOCRにかけられることができるぞ。OCRを行うには「gocr」パッケージが別途必要だ。

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

「Totem動画プレイヤー」はコーデックが不足していて再生できない動画があった場合に、不足しているコーデックを判断してインストールを促すダイアログを表示するなど、使いやすい部分を持っている。だが、Totemを「ただ再生して終わり」という使い方をしたいのではない。プラグインを使いこなせば、BBCラジオをTotemのウィンドウ内で再生できたりする。

他にも、最近のハードディスクレコーダは録画した映像をネットワーク経由で配信するDLNAサーバ機能がついているものがあるので、取扱説明書にしたがってDLNAをオンにすると、Totemからハードディスク内に録画されているアナログ放送のファイルを再生できる。DLNA機能と無線LANを組み合わせれば、家の中のどこでもレコーダ内の映像が見られる。逆にUbuntuを動画配信する側にしたい場合は「MediaTomb」というパッケージ



## エディタでもプレイリストの編集は可能

←プレイリストの実体はテキストファイルなのでテキストエディタで開いても編集できる。



## プレイリストとして保存

↑動画ファイルを観るだけでなくDLNAクライアントにもなる多機能プレイヤー。

←Totemには再生一覧に表示されているファイルをプレイリストとして保存する機能がある。再生一覧の下部に表示されている「再生一覧を保存」するボタンをクリックしてみよう。

## 動画のダイジェストを作成



↑[編集] - [ギャラリーの作成] を使えば動画のダイジェスト画像が作成できる。ダイジェストに使用する画像の枚数も指定できる。



## BBCラジオのコンテンツも再生できる

←サイドバーを「BBC」に切り替えるとBBCラジオのコンテンツが再生できる。本来はYouTube閲覧機能もあるが現在は使えない。

## 追加のプラグインを有効に

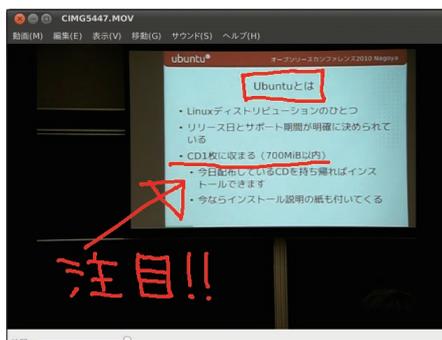


↑[編集] - [プラグイン] を開いて有効にしたいプラグインにチェックを入れよう。

## 追加のプラグインをインストール

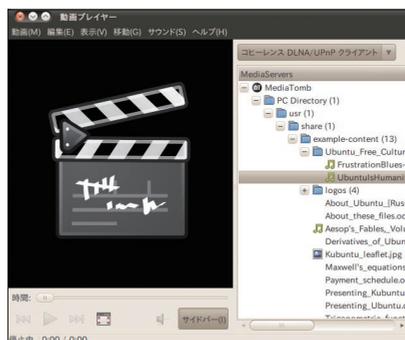


↑Totem用の追加のプラグインは「totem-plugins-extra」というパッケージに収録されている。Ubuntuソフトウェアセンターを使ってインストールしよう。



## ムービーに注釈を書き込める

←「Gromit 式のアンテーション」を有効にするとプレゼンテーション時に便利かもしれない書き込み機能が使えます。[Ctrl] + [D] で描画開始、[Ctrl] + [E] で画面クリアだ。



## DLNAクライアントプラグイン

←「コヒーレンス DLNA/UPnP クライアント」を有効にするとDLNAサーバ内のファイルがサイドバーに表示されDLNAクライアントになる。

プラグインで多彩な機能を使いこなす

## Transmission BitTorrent クライアント



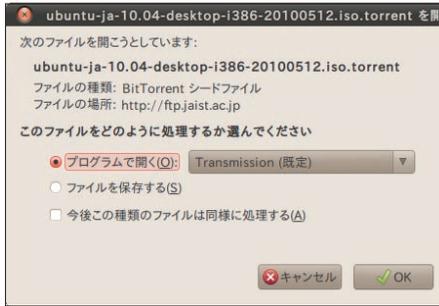
↑ BitTorrent は OS など巨大なファイルの流通には非常に役にしてくれる。Ubuntu ダウンロード時に使ってみよう！

# Ubuntu を短時間でダウンロード

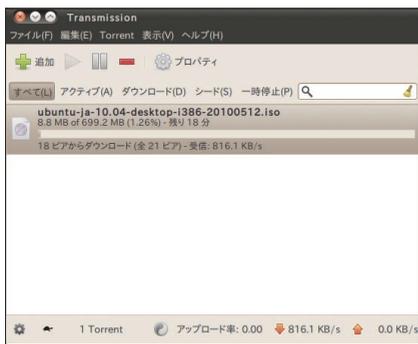
「ISOイメージの配布にも協力できる！」

「Transmission」は BitTorrent で配布されているファイルをダウンロード、共有するためのアプリケーションだ。Ubuntu の ISO 形式の CD イメージは通常の HTTP を利用したダウンロードだけでなく、BitTorrent を使ってもダウンロードできる。BitTorrent はダウンロードする人の数が多ければ多いほどダウンロードが速くなるという特徴があるので、Ubuntu のリリース直後でサーバが混雑しているようなときに効果を発揮する。ただし、ISP（インターネット接続事業者）によっては BitTorrent の通信を遮断しているところもあるので使えない場合がある。BitTorrent でダウンロードするには、Firefox で、Torrent ファイルと呼ばれるファイルのリンクをクリックするだけだ。Ubuntu の日本語 Remix の場合は <http://www.ubuntuinux.jp/products/JA-Localized/download> からアクセスできる。みんなが共有比3を目指して配布に貢献だ！

## Transmissionで開く

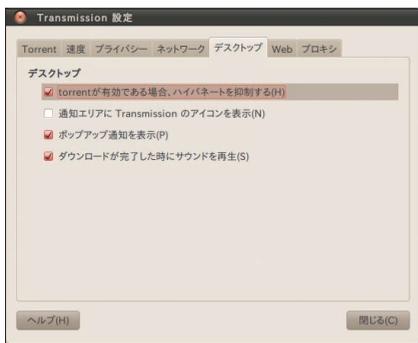


← 「プログラムで開く」の項目で「Transmission」を選択して「OK」をクリックしよう。



## ダウンロード中

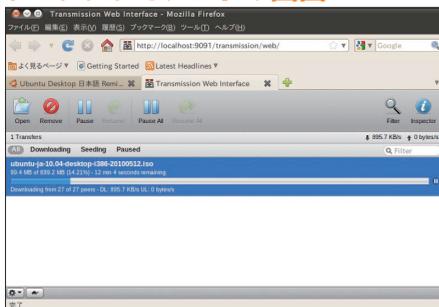
← 1カ所のサーバからダウンロードするのではなく複数の相手（ピア）から同時にダウンロードするので、速くダウンロードできる場合が多い。



## ハイパネットを抑制

← ダウンロード中にハイパネットなどに移行してしまわないように「デスクトップ」タブで「ハイパネットを抑制する」にチェックを入れておこう。GNOME パネルの「省電力アプレット」も同様の役割を持っている。

## ウェブクライアントの画面



← この画面のようにブラウザ上で Transmission の操作ができる。アプリケーションとは雰囲気が違うテーマを採用しているのも特徴だ。

## Torrentファイルをクリック



← Torrent ファイルをブラウザでダブルクリック。Torrent ファイルには BitTorrent でのダウンロードに必要な情報が収められている。



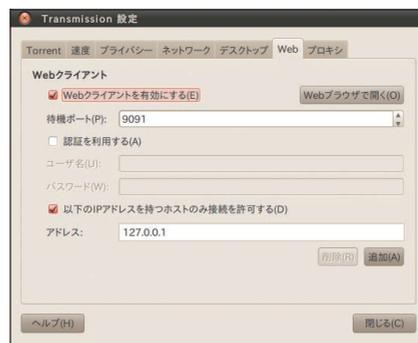
## 保存先フォルダを選択

← 「保存先フォルダ」の項目でダウンロードするファイルを保存する場所を選択しよう。「追加」をクリックするとダウンロードが開始される。



## 共有比の設定

← 「編集」 - 「設定」を開いて「アップロード比率がこの値に達するまでシードする」にチェックを入れよう。BitTorrent はダウンロードだけでなく、ダウンロードしたファイルを他の相手にも配布するという特徴がある。この値で配布する比率を設定できる。



## ウェブクライアントもある

← Transmission はウェブクライアントの機能を持っている。「Web」タブで有効にして「Web ブラウザで開く」をクリックするとウェブブラウザで操作画面が表示される。また、設定を変更すると、他のマシンの Transmission を、ブラウザから遠隔操作できるようになる。

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

この nihongobenko.org は「日本語を勉強したい人」向けの辞書サイトで、豊富な例文や「英語で」という表現にあたるのかといった情報が含まれる。

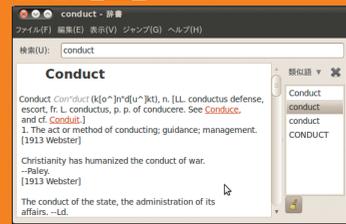
また、この「辞書」機能は、アプレットとしてパネルに追加も可能だ。パネルで右クリックして「パネルへ追加」から、「辞書検索」を追加しよう。

Ubuntuにはデフォルトで「アプリケーション」・「オフィス」・「辞書」として、辞書ツールまで用意されている。初期状態では英英辞書のみなので、設定を追加するといだろう。辞書アプリを開いたら「編集」・「設定」とたどって、「辞書の設定」ウィンドウを開き「追加」ボタンを押す。「説明」と「ホスト名」の両方に「nihongobenko.org」と入力したら「追加」だ。この状態で、右側の「利用可能な辞書の一覧」の下にある丸まった矢印の「更新」ボタンを押して、「index」を選択するれば和英辞書十簡易国語辞書として使えるようになる。

「Ubuntuには辞書まで入っているのだ！」

Ubuntu 10.04 Standard Apps

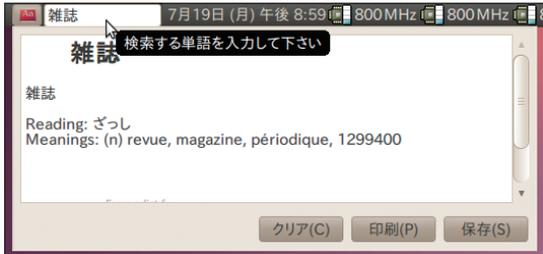
## 辞書



↑英和・和英に加えて、英文の例文や英英辞書・漢英辞書まで、なんでもできるように！

# 辞書を増やして、もっと活用するのぞく

## パネルから辞書が引ける!



↑画面上部や下部のパネルにちよっとと文字を入力するだけで辞書が引ける。

## 和英辞書としても使える!



↑簡単な和英辞書とはいえ、ちょっとした英文を書くときにはかなり便利だ。

## 辞書設定追加



↑そのままでは英英辞書しか入っていないので、辞書設定を追加。

「GjitenとgWaei」さらにパワーアップ!

デフォルトの辞書もそれなりに利用できるが、もっと色々な検索をしたい! ということもあるだろう。漢字まわりの検索は特にそうなるはずだ。その場合、「Gjiten」と「gWaei」パッケージをインストールしよう。

Gjitenはインストーラーだけで機能するので追加しておいて損はない。「アプリケーション」・「アクセサリ」・「Gjiten 日本語辞典」から起動可能だ。「日本語検索オプション」を「いずれかに該当する」にしておいたほうが例文も検索されて便利になる。

gWaeiも「アプリケーション」・「アクセサリ」・「gWaei 和英辞書」で起動できるが、少し辞書の設定が必要になる。本来なら「編集」・「設定」を開き、「辞書のインストール」タブで「追加」すればOKなのだが、10.04ではバグでうまく機能していない。

そこで、Gjitenの辞書ファイルのコピーしよう。「端末」を開き、「mkdir -p /waei; cp -a /usr/share/gjiten/dics/\* /waei」と入力すればOK。あとは例文付きの和英辞書が機能するようになる。GjitenもgWaeiも、基本的には同じ機能を持ったソフトウェアなので、好みに応じて使うものを決めるといいだろう。

Gjitenによる単語検索

↑検索オプションを色々指定でき、漢字検索も起動可能なのだ。

## 辞書のインストール



↑gWaeiを使う前に辞書をコピーしておく。コピー操作はちょっと面倒だが、一度済ませれば後は不要なので頑張ろう。なお、あくまでバグのせいなので、将来的にはこんな操作は不要になるはず!

⇒ひたすら「検索すること」に特化した、GjitenよりもシンプルなGUIが特徴。デフォルトの状態では例文や用例も含めてマッチするので、辞書アプリ入門にはオススメだ。

## gWaeiで例文も含めて!

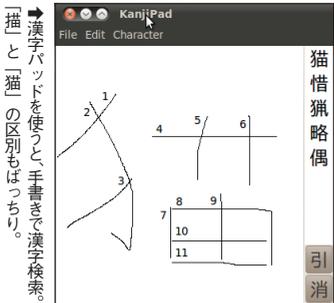


## Gjitenによる単語検索



↑検索オプションを色々指定でき、漢字検索も起動可能なのだ。

## 手書きで漢字を探せる



⇒漢字パッドを使うと、手書きで漢字検索。「猫」と「猫」の区別もばっちり。

## 漢英辞書で漢字を検索



⇒部首から漢字を検索することもできる。手書きで認識しきれないときはコレ!

「漢字も辞書引きできるようにしたい!」

Gjitenには「漢英辞典」と「漢字パッド」(手書きによる漢字検索機能)が組み込まれている。漢字パッド機能を使うには「kanjipad」の追加インストールが必要で、「正しい書き順で、つながらべき線と線をきちんとして書く」のがコツだ。いずれも読み方が分からない・入力できない文字を調べる場合に使える。漢英辞典は「画数」・「部首」・「キー」による検索が可能だ。



↑コマンド操作を行う時に必須なのが端末。Byobuを使えばさらに便利になる!

# 快適にコマンド操作をせよ!

## 「GNOME端末でコマンド操作に挑戦」

Ubuntuではコマンドの入力が必要とする場面は少ないが、しかし場合によってはキーボードからコマンドを入力したほうが効率的に作業を行えることもある。コマンド入力は端末と呼ばれるアプリケーションの上でシェルを起動して行う。そしてUbuntu標準の端末アプリケーションがGNOME端末だ。GNOME端末を使えば、GUIデスクトップ上でコマンドを実行できる。GNOME

## 端末の外見をカスタマイズ



→好みのフォントや色を設定しよう。色はあらかじめ設定された組み合わせから選択する他に、自分で指定もできる。

## お気に入りの画像を背景に



→デフォルトの背景は単色で塗られているのだが、背景を透明にしたり、任意の画像を指定できる。

E端末はタブ表示機能を備えており、ひとつのウィンドウで複数のシェルを起動できる。また「編集」「プロファイルの設定」からは外見を柔軟にカスタマイズ可能で、使用するフォントや背景色、文字色を自由に変更できるのはもちろん、背景に壁紙として画像を表示できる。

また、様々な文字コードに対応しているのもGNOME端末の特徴だ。デフォルトではUTF-8が設定されているが「端末」→「文字コードの指定」から任意の文字コードを追加できる。EUC-JPのような文字コードが使われているサーバを操作するような場合に便利な機能といえる。

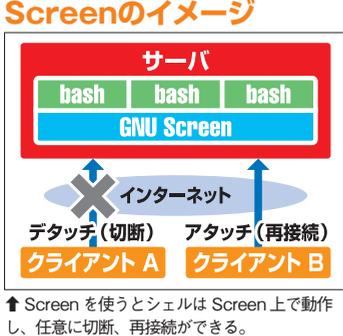
なお端末でのコマンド操作については、本誌Vol.03の特集「コマンド&端末入門」も参考にしてほしい。

## 「GNU Screen」Byobu

「GNU Screen」という仮想端末管理ソフトを使えば、端末をより便利に利用することができ。まずScreenは、自身の上で起動しているシェルと、接続している端末を分離する機能を持っている。たとえば、不意にGNOME端末がエラーで落ちてしまったら、プログラムは終了してしまふ。しかしScreenは端末が閉じられてしまってもバックグラウンドで動作しつづけ(デタッチ)、Screen上で起動されたプ



↑GNU Screenがないと、接続が切れた場合は動作中のプロセスも終了してしまふ。



↑Screenを使うとシェルはScreen上で動作し、任意に切断、再接続ができる。

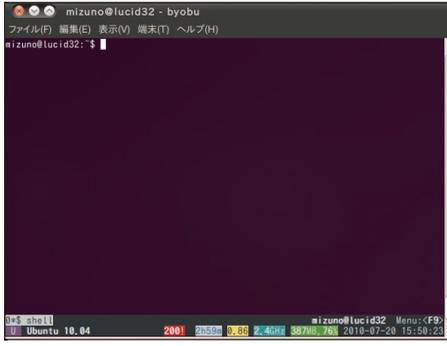
ログラムはScreenによって保護されるのだ。ユーザは新しい端末からScreenに接続(アタッチ)しなおせば切断前の状態から作業に復帰でき、作業内容を失うこともない。この機能を活用すれば、会社から帰宅する際にデタッチを行い、自宅で会社のマシンへアタッチして作業再開、のようなことも実現できる。またScreen起動中に「Ctrl」+「a」キーを押した後に「c」キーを押すことで、新しいウィンドウを開くことができる。Screen上では複数のウィンドウを開くことができ、タブブラウザのように自由にウィンドウを切り替えるには「Ctrl」+「a」の後に「n」(順方向)もしくは「Ctrl」+「a」の後に「p」(逆方向)を使う。開いたウィンドウを閉じるには「Ctrl」+「a」の後に「k」だ。これらの操作はそれぞれCreate/Next/Previous/Killの頭文字として考えると覚えやすい。

ちなみにScreen上で特殊な操作を行うには、プレフィックスキーとして「Ctrl」+「a」を使う。「Ctrl」+「a」はカーソルを行頭に移動するショートカットでもあるが、Screen上でカーソルを行頭に移動するには「Ctrl」+「a」を二度続けて押す必要があることに注意しよう。

このように便利なScreenだが、Ubuntuには使い勝手のないScreen環境を提供する「Byobu」というソフトが搭載されている。「Byobu」コマンドで起動できるようになっている。Byobuは下部のステータスラインに現在時刻、ロードアベリッジやメモリ使用率といったマシンの状態に加え、タブブラウザのように現在のウィンドウ一覧が表示されるため、端末の状態がとてつわりやすくなっている。Byobuには多重起動を抑制する機能があり、Byobu内でByobuを起動することはできなくなっている。また、既にデタッチされたByobuが存在する時は自動的にアタッチも行うなど、Screenに比べ、使い勝手も改善されているのだ。

## これがByobuだ!

←Byobuを使えば、Screenはさらに使いやすくなる。ちなみにByobuはUbuntuプロジェクトから生まれた、Ubuntuならではのソフトウェアだ。

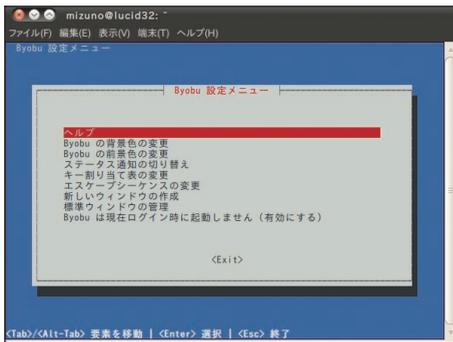


# 標準 アプリ徹底使いこなし術

## 「Byobu」をカスタマイズする

デフォルトでも十分に使いやすい Byobu だが、「byobu-config」コマンドを使うことで柔軟にカスタマイズすることが可能だ。Byobu-config を実行すると、Byobu の各種設定を選択するメニューが表示される。「ヘルプ」には Byobu の基本的な操作方法が記載されているので、まず最初に目を通しておくといいだろう。byobu-config でのカスタマイズは、基本的に各項目を選択していくだけになっている。「Byobu の背景色の設定」と「Byobu のステータスラインの背景色と文字色を設定できる。あくまでステータスラインの色であって、端末の背景色や文字色ではないので注意して欲しい。」

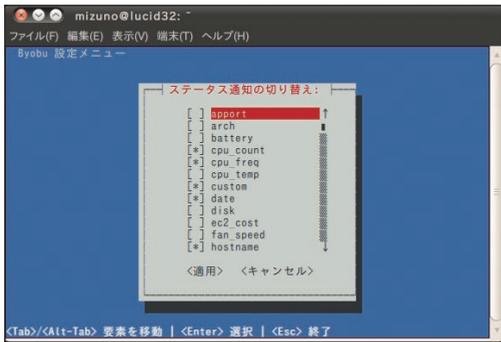
「ステータス通知の切り替え」では、ステータスラインに表示される項目を選択できる。表示された項目を選択し、スペースキーでチェックを入れたら「適用」を選択して「Enter」を押そう。Byobu を再起動すれば、ステータスラインに選択した項目が追加されているのがわかるはずだ。なおデフォルトでは CPU 数、CPU 周波数、起動時間、ロードアベレージ、メモリ使用量、時計、ホスト名、アップデートの通知、再起動の必要の有無といった項目が選択されており、通常の使用ならこれで十分とも言えるだろう。「キー割り当て表の変更」では、Byobu 独自のキーバインドセッ



### Byobu をカスタマイズ

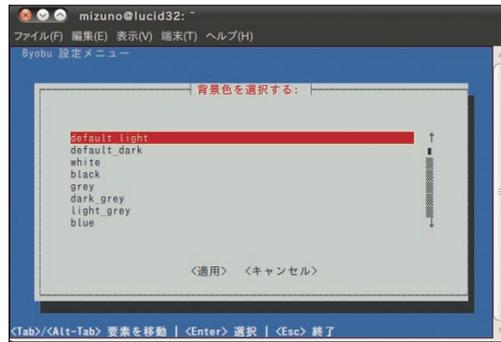
byobu-config コマンドを使えば、メニューを選択するだけで Byobu をカスタマイズできる。設定ファイルをいじったりする必要はないのだ!

トを変更することができる。デフォルトでは「F-keys」が設定されており、「F2」で新しいウィンドウを開いたり「F9」で Byobu のメニューを表示するなど、ファンクションキーが各機能に割り当てられている。これを「screen-escape-keys」に変更すると、メニューの表示はプレフィックスキー「@」に変更されるなど、Screen のプレフィックスキーを用いたキーバインドセットが使用されるようになる。「エスケープシーケンスの変更」では、Byobu (Screen) の操作に使うプレフィックスキーの変更が行える。前述の通りデフォルトのプレフィックスキーは「Ctrl」+「a」だが、「Ctrl」+「z」などに割り当てを変更しているユーザも多いので、参考にしてほしい。変更するには、プレフィックスキーとして使用したいキーを押して「適用」しよう。なおこの設定時には「Ctrl」キーを押す必要はないぞ。



### 様々な情報を表示!

デフォルトでも多すぎるほどの情報が表示される Byobu のステータスライン。項目を選ばただけで表示情報を追加できるし、また消すこともできるぞ。



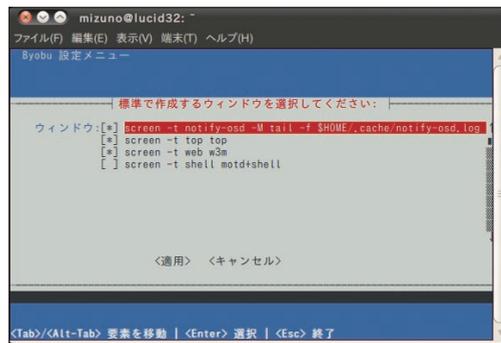
### 表示色を変えてみよう

カスタマイズの基本は見た目から。ステータスラインの背景色と文字色を自分好みに変更してみよう!



### Notify OSDを端末で!

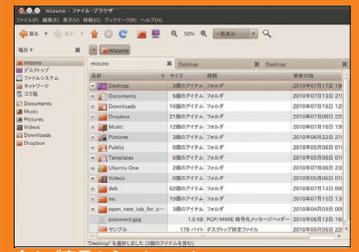
標準では無効になっている、notify-osd.log を tail するウィンドウを有効にしてみたぞ。このように新しいメッセージが通知されると、端末に表示されるのだ。



### 起動時のウィンドウ

Byobu 起動時に自動的に作成されるウィンドウを管理できる。エディタやブラウザなど、常時使うアプリを登録しておくとうりかもしれないぞ。

# 標準、されど多機能なファイル・ブラウザ！



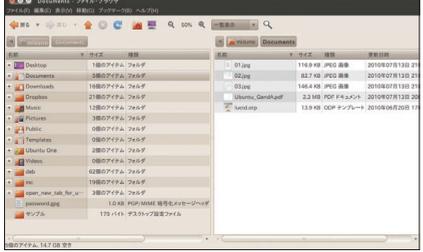
↑タブ表示やネットワークフォルダにも対応！

## 「ファイル・ブラウザ」を使いこなせ!!

NautilusはGNOME標準のファイルブラウザだ。Ubuntuだけでなく、GNOMEを採用しているデスクトップ環境ならどこでも使用することができる。ファイルの閲覧、ダブルクリックでのオープン、ドラッグ&ドロップでの移動、コピーなど、Windowsのエクスプローラとよく似たクセのないインタフェースを備えているので、初心者でも戸惑うことなく使えるファイル・ブラウザだ。

最新のGUIアプリケーション

## 2ペインでファイル表示



↑ [F3] キーを押せば、ひとつのウィンドウ内に同時に2つのフォルダを表示できるぞ。

## ブックマークの管理



↑頻繁にアクセスするフォルダはブックマークに追加しよう。サイドペインに表示する名前や順番も自由に選べるぞ。

## ネットワークの表示



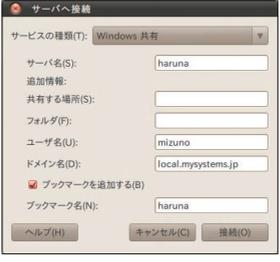
↑メニューの[移動]-[ネットワーク]で、ワークグループ内のコンピュータを表示できる！

## サイドペインからアクセス



←追加したブックマークはサイドペインの場所メニューに追加されるのだ。ネットワークのフォルダにもクリックひとつでアクセスできるように、とても便利！

## サーバへ接続



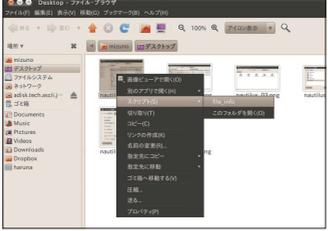
↑Windows共有やFTPのフォルダへの接続もカンタンだ。

## 独自機能を実行!



↑選択したファイルを引数に、スクリプトが実行された。どんなスクリプトでも呼び出せるため、拡張性は事実上無限大だ！

## スクリプトを追加しよう



↑追加したスクリプトは右クリックメニューの[スクリプト]から実行できるぞ。自作スクリプトにはわかりやすい名前をつけておこう。

## 選択したファイルの名前とサイズを表示する

```
#!/bin/sh
for arg
do
  filename=$arg
  filesize=$(wc -c $arg | cut -f 1 -d ' ')
  gdialog --title "File Information"
  --msgbox "Filename: $filename\nFilesize: $filesize Byte"
done
```

↑変数 arg に選択したファイル名が渡されて、スクリプトが実行されるぞ。シェルスクリプトの詳細は、本誌 Vol.04 も参考してほしい！

ではもはや定番となったタブ表示機能を備えており、中クリックするか、また右クリックから「新しいタブの中に開く」を実行すれば、選択したをフォルダを新しいタブで開ける。また「F3」キーを押すとウィンドウを左右2ペインに分割もできる。こうすることによって2つのフォルダを並べて表示することができるため、ファイルのコピーや移動などがやりやすくなるのだ。複数のウィンドウを開くよりも画面がすっきりとするため、おすすめの機能だ。1ペイン表示に戻すには、もう一度F3キーを押せばいい。

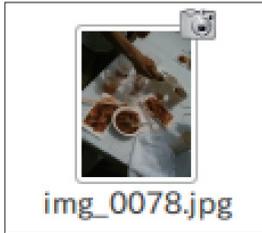
「ネットワークフォルダとブックマーク」メニューの「場所」→「サーバへ接続」を実行すると、FTPやSSH、Windows共有フォルダなどのリモートフォルダに接続できる。接続したフォルダはウィンドウ左のサイドペインに表示され、ローカルのフォルダと同様にアクセスできるようになるぞ。頻繁にアクセスするフォルダはブックマークに登録しておくことで、再度のアクセスがすばやく行えて便利だ。登録したいフォルダを開いた状態でメニューの「ブックマ

ーク」→「ブックマークの追加」か、「Ctrl」+「d」キーを押そう。サイドペインの一番下に、現在のフォルダが追加されるはずだ。次回はサイドペインの場所をクリックするだけで、このフォルダにアクセスできる。もちろんネットワーク越しのリモートフォルダもブックマークできるし、アクセス用のパスワードを保存しておけば次回からはパスワード入力なしでマウントできるぞ。「ブックマークの編集」メニューでは、ブックマークの表示名、アドレス、サイドペイン上での並び順を編集できるのだ。

「自作スクリプトで機能拡張できるぞ!」自作のスクリプトを追加して、Nautilusの機能を拡張することもできる。ホームフォルダの「/gnome2/nautilus-scripts」に実行可能なスクリプトを配置しておけば、Nautilus上で右クリックで表示されるコンテキストメニューから「スクリプト」→「スクリプト名」を選択してスクリプトを実行できる。例えば左のようなシェルスクリプトを「/gnome2/nautilus-scripts/file-info」として保存して、実行権限を与えよう。Nautilus上でファイルを右クリックして「スクリプト」→「file-info」を実行すると、ダイアログにファイル名とファイルサイズが表示されるぞ。

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

## アイコンにエンブレム 背景色とパターン



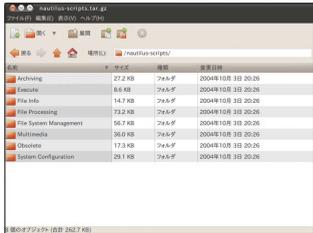
↑写真ファイルにカメラエンブレムを付与してみた。自撮の写真にエンブレムをつけて目じるしに。



↑様々な色やパターンがデフォルトで用意されている。好みのパターンを背景にドラッグして設定しよう。デフォルトに戻すには、[リセット]を設定する。

「ウィンドウ背景とエンブレムの設定」  
Nautilusでは、ウィンドウの背景を好みの色に変更するのではなく、「編集」→「背景とエンブレム」を開き、設定したいパターン画像や色をNautilusのウィンドウにドラッグ&ドロップしよう。「エンブレム」はファイルのアイコンに付ける小さなマークだ。たとえばUbuntuOneフォルダで、同期済みや同期中のファイルに付いているマークにもこのエンブレムが利用されている。エンブレムも背景同様、ファイルアイコンにドロップして付与できるほか、ファイルを右クリックして「プロパティ」→「エンブレム」でも設定できる。ファイルの整理にエンブレムを活用してみよう。

## 展開してインストール



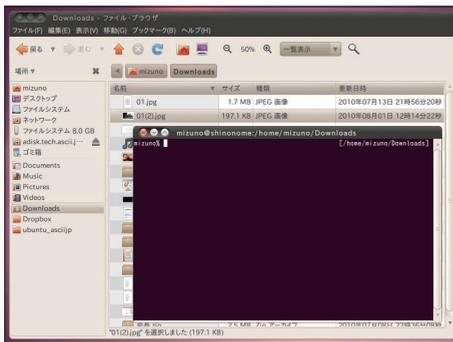
↑nautilus-scriptsディレクトリごと圧縮されているため、展開先は~/gnome2ディレクトリを指定しよう。

## G-Scriptを導入しよう



↑tar.gzアーカイブをダウンロードしよう。なんと100種類以上のスクリプトが詰め込まれているのだ！

「G-Scriptを使いこなし」  
『Nautilus File Manager Scripts』(http://g-scripts.sourceforge.net/)のページには、Nautilusで使える便利なスクリプト集(G-Script)が公開されている。ここから「nautilus-scripts.tar.gz」ファイルをダウンロードして「~/gnome2/nautilus-scripts」に展開するだけで、スクリプトのインストールは完了だ。そんなNautilusの機能を大幅に拡張できるG-Scriptの中から、特に便利なスクリプトを抜粋して紹介しよう。もちろん紹介した以外にも多くの便利スクリプトが同梱されているので、いろいろ試してNautilusを便利に使う。



## ここでターミナルを開く

←開かれたGNOME端末のレントフォルダが、Nautilusで開いているフォルダになっているのわかる。

## Open Terminal Here

[Execute] - [Open Terminal Here] は、選択したフォルダをカレントフォルダとして、GNOME端末を新しく開くスクリプトだ。

コマンドをよく使うユーザーならば、Nautilusでのファイル操作中にも、端末を併用してファイル操作コマンドを実行したくなる場合があるだろう。通常であればGNOME端末を開いた後「cd」コマンドで該当のフォルダまで移動する必要があるが、このスクリプトを使用すれば起動時にカレントフォルダが変更されるため、いちいちcdコマンドを入力する必要もなくなるのだ。



## 画像を壁紙に設定

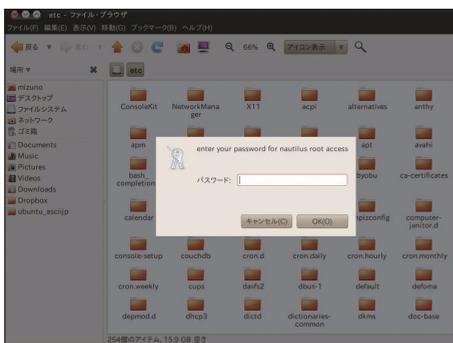
←4種類の表示方法の中から、好みの表示方法を選択しよう。壁紙にはPNGやJPEG画像が指定できるぞ。

## Set image as Wallpaper

[System Configuration] - [Set image as Wallpaper] は、選択した画像をデスクトップの壁紙に指定することができるスクリプトだ。

実行すると [Wallpaper]、[Centered]、[Scaled]、[Stretched] の4つから、壁紙の表示方法を選択するダイアログが表示される。

[Wallpaper] は全体に壁紙を敷き詰め、[Centered] は壁紙を中央に表示する。[Scaled] は高さや幅が画面一杯になるようサイズを自動調整し、[Stretched] は画面のサイズに合わせて画像を変形させて表示するスタイルだ。



## 管理者権限でNautilusを

←管理者権限で新しくNautilusのウィンドウを開くため、パスワードが要求される。認証をパスすれば管理者権限でファイル操作が可能になるが、くれぐれも注意して使用しよう。

## Root Nautilus Here

ユーザがファイルを編集できるのは自分自身のホームフォルダのみなので、通常はNautilusでそれ以外のフォルダを操作することはできない。[Execute] - [root nautilus here] は管理者権限で現在のフォルダを開きなおし「/etc」以下のフォルダなどを自由に操作可能にするスクリプトだ。

ただし、うっかりファイルを変なフォルダにドロップしてしまったり [Delete] キーを押してしまったりすると、容赦なくファイルが移動されたり削除され致命的になることも。そのあたりを覚悟して、管理者権限は利用しよう。

# 標準アプリを補う、注目のアプリケーショ

## 「注目のアプリケーションを試してみよう」

UbuntuはCD1枚に収めるために、アプリケーションの数をかなり絞っている。そこで、標準アプリケーションを補うために、「Ubuntuソフトウェアセンター」内に「注目のアプリケーション」というカテゴリを設けて簡単に追加インストールできるようになっている。

注目のアプリケーションには、動画変換、音楽編集、3D CG作成、バックアップ、音楽編集、ディバイスセンター、プラネタリウム、ファイアーウォールなど多種多様なジャンルから優れたアプリケーションが選ばれている。Ubuntu標準のアプリケーションを堪能し終わったら、次は注目のアプリケーションを試してみるのがおすすめだ。

## 注目のアプリケーション



↑ Ubuntuソフトウェアセンターを開くと目立つ位置に赤色のボタンがあるのでクリックしてみよう。

「Arista」は簡単な操作で携帯機器向けに動画を変換するアプリケーションだ。iPod、PSP、PS3、PDAなどの機器に対応している。エンコードに関する詳細な設定は用意されておらず、交換先のデバイスを選んで開始するだけだ。初期状態ではインストールされているコーデックの関係で、エラーメッセージが表示されるが、「ubuntu-restricted-extras」パッケージをインストールすれば、すべてのデバイス向けに変換できるようになる。また、DVDドライブに挿入したDVD内の映像を直接変換する機能も持っている。

1つ目のファイルを変換中でも2つ目以降のファイルの変換の指令を出すことができ、キューに追加されていく。大量のファイルをエンコードする場合は、待ち時間を無駄にせずキューにどんどん交換の予約を入れていこう。

## 「動画を持ち歩き用にさくさく変換できる!!」



↑さまざまな携帯機器向けに手軽に動画フォーマットを変換してくれる。

## デバイスを選択



↑「Device」の欄でリストから機器を選択する。次に「Add to Queue」をクリックして変換を開始する

## ファイルを選択



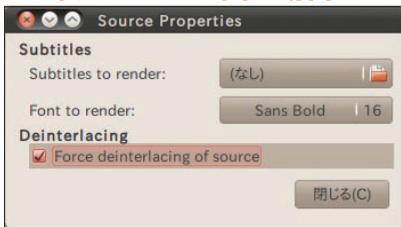
↑「Source」の項目で「ファイルを開く」を選択して、変換元の動画を選択する。

## ubuntu-restricted-extrasをインストール



↑初期状態では、対応できる機器に限られるので、先にインストールしておこう。

## くし状のノイズが出る場合は



↑変換結果に水平方向のくし状のノイズが出る場合には、設定画面で「Force deinterlacing of source」にチェックを入れてみよう。

## 動画を変換中



↑変換中には変換結果がプレビュー画面に表示される。この状態で次のファイルの予約ができる。

## 保存先を指定



↑ファイルの保存先を指定する。拡張子は選択したデバイスに合わせて適切なものが付けられる。

「システム」・「システム管理」・「ソフトウェアソース」の「他のソフトウェア」タブを開き、

## 1 PPAを登録する

## Mozeのインストール方法

「注目のアプリケーション」ではないが、今、注目されているのがGoogle日本語入力用のオープンソース版である「Moze（もずく）」。挑戦してみたい人は左の手順で導入してみるといいだろう。ただし、これは Ubuntu Japanese Team による「PPA for Japanese packages for testers」の Moze 用 PPA を登録する方法で、テストの名前どおり、現段階ではバグなどもありうる。トラブルに遭遇したらどうしたらいいかわからない、という人は10・10以降を待つのがよさそうだ。

## 「変換効率の高さで注目を集めるMoze」



↑固有名詞の変換効率の高さが話題になった Moze をいち早く試してみよう！

# 標準 アプリ徹底使いこなし術



## 彩度の調整

← [色] - [色彩・彩度] を選択するとこの画面が表示される。画面下部のスライダを動かして彩度などを調節する。画面上側で色を選択してからスライダを操作すると、空や木々の色など特定の色の範囲だけを強調できる。

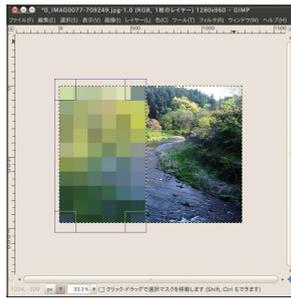
「F-Spot」にも簡単な画像編集機能は付いているので、それでは物足りない場合に試してみよう。画像を切り取ったりする基本的な操作から、トーンカーブやレベルを用いての明るさ調整、「色相・輝度・彩度」といった指標を使つての細かい調整ができ、フィルタやスク립トなども利用できる。

「F-Spot」物足りないうきは「F-Spot」



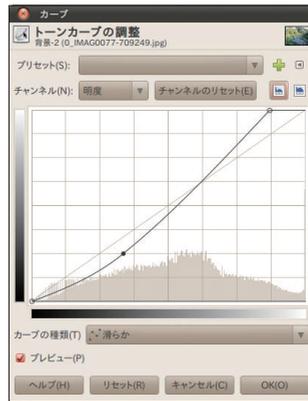
## モザイクもかけられる

→モザイクなど多彩なフィルタが用意されている。モザイクは [フィルタ] - [ぼかし] - [ピクセル化] で細かさなどを調整できる。



## 草が消えた

←次に、草の部分をマウスポインタでドラッグすると、先ほど選択した川の水分が草の上を上書きされ草が消えたように見える。他にも「修復」ツールや「にじみ」ツールを使って調整しよう。



## トーンカーブの調整

← [色] - [トーンカーブ] では、明度をトーンカーブを使って調整できる。まずは上端と下端の点で白と黒の基準点を決める。つぎにその間を曲線で結ぶことによって全体のバランスを調整する。

## 川の中の草を消す

→川の中に生えている草を消してみる。ここでは「スタンプツール」を使う。スタンプツールを選択したら、まずは [Ctrl] を押しながら川の水の部分をクリックする。

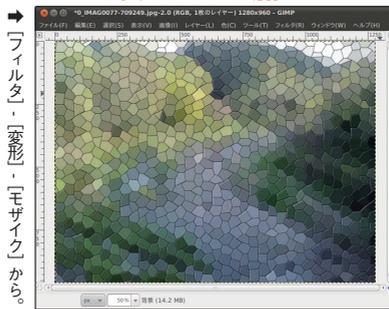


## ロゴの作成



↑ [ファイル] - [画像の生成] - [ロゴ] で作成。図は「ネオン効果」。

## タイル絵のように加工



## 油絵のように加工



3 インポートメントを変更  
いったんログアウトしたら、「システム」-「設定」-「iBus の設定」の「インポートメント」タブで「インポートメントの選択」メニューから「日本語・Mozc」を選び、「追加」ボタンを押す。その後、「Mozc」をインポートメントのいちばん上へ順位を上げよう。これで Mozc を使って日本語入力ができる。元に戻したいときはインポートメントの順位を「Anthy」が最上位になるように戻せばいい。

## 追加したPPAを選択



↑ Mozc 用 PPA が登録できたら、インストール自体はボタンを押すだけでとても簡単だ。

2 iBus-mozc をインストール  
「Ubuntu ソフトウェアセンター」の左ペイン、「ソフトウェアの入手」の下にある「PPA for Japanese packages for testers」を選択する。右に表示される「ibus-mozc」をインストール。同時に必要な「mooz-server」、「mooz-utils-gui」も自動でインストールされる。

今何をすべきかをはっきりさせるために、「作業の表示」モードで表示するタスクはできるだけ絞り込もう。例えば、かなり緊急性の低いタスクは「いつかやる」といったタグをつけてそのタグを「作業の表示」で表示させないようしておこう。今着手できないタスクにはきちんと着手日を設定しておくのも重要だ。

ひとつの大きなタスクを、細かい複数のタスクとして分割して登録するサブタスク機能や、締め切りは決まっているもののまだ着手できないタスクに着手日を指定できたりと、かゆいところに手が届くツールだ。

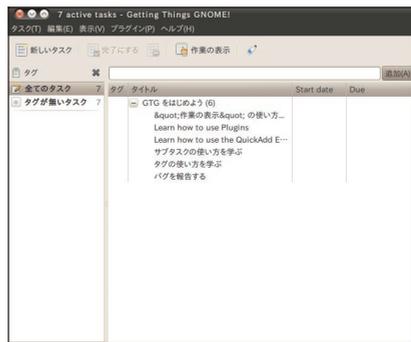
「Tomboyと連携も!」

「Getting Things GNOME! (GTG)」はタスク管理の考え方であるGTD (Getting Things Done) を実践するためのアプリケーションだ。ただタスクを記録して消化していくだけでなく、メモアプリケーションTomboy (97ページ参照) やタスク管理のウェブサービス「Remember the Milk」と連携できる。



### プラグインを追加しよう

GTGには多くのプラグインが用意されている。この中でのおすすめはTomboyのメモをタスクの内容としてリンクできる「Tomboy/Gnote plugin」、Remember the Milkとの連携ができる「Remember the Milk」だ。



### GTGの画面

画面右側に表示されているのが、タスクの一覧。タグの「表示」メニューで、画面左側のタグ一覧を表示させられる。

### Remember the Milkの認証



GTGのウィンドウに表示されている牛乳瓶アイコンをクリックするとRemember the Milkと同期できる。初回同期時にはブラウザで認証ページが開かれログインすると認証が完了する。

### 通知領域のメニューも追加できる



「Notification area」というプラグインを追加すると画面右上にGTG専用のメニューが表示できるようになる。アイコンをクリックしてすぐにタスクを追加したり、タスクの内容を確認したりできる。



### サブタスクを追加する

今日「買い物」で、「スーパー」だけでなく「ホームセンター」や「薬局」でも買物をする必要がある場合、「買い物」のサブタスクとして「場所ごとのタスク」を登録しておくといい。サブタスクを追加するにはツールバーから選択するか、「-」の次にタスクを書き込む。



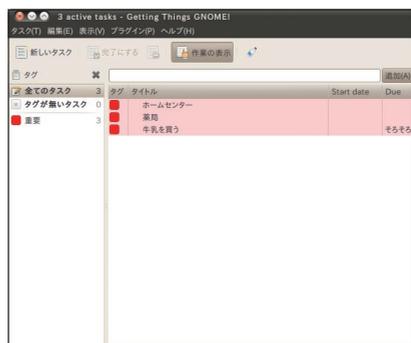
### タスク追加画面

「新しいタスク」を選択するとこのような画面になる。一番上の行にタスクのタイトル、次の行からタスクの内容を書いていく。タスクの期日や着手日はカレンダーから選択する。日にも以外に「今すぐ」「そろそろ」「後でやる」といった選択肢もある。



### Tomboyとの連携

タスクの内容をGTGに書かずTomboyのメモへのリンクで済ませたり、タスクの補足情報が書かれたメモをリンクさせたりといった使い方ができる。リンクを作成するにはツールバーのTomboyのアイコンをクリックしてメモのタイトルを選択しよう。



### タグをつける

タグをつけるにはツールバーから選択するか、タスク内で「@」の後にタグ名を書き込もう。タグには色を設定できるので、例えば「重要」というタグがついたタスクを赤色で表示させるといったことができる。また「いつかやる」といったタグを作りそのタグがついたタスクは「作業の表示」時に表示させないといった使い方ができる。

Ubuntuには今のところ、Windowsに備わっているような復元ポイントといった仕組みがない。ただし、Ubuntuはホームフォルダのバックアップを定期的に取っておけば、いざというときに困ることは少ない。なぜならホームフォルダ内にはユーザが作成したファイルとユーザの設定がすべて保存されているからだ。このフォルダを「Déjà Dup」を使って定期的にバックアップを取っておけば、盗難や紛失、故障などでマシンを失ってしまった場合も、新たなマシンにUbuntuをインストールしてDéjà Dupを使って復元するだけで、ほぼ元の環境を取り戻せる。Déjà Dupは簡単な設定を済ませておけばそんな大切なバックアップを自動で取ってくれる心強い味方だ。定期的なバックアップを設定し、暗号化パスワードを記憶する設定にしておくと、Déjà Dupは時間が来ると画面右上に通知アイコンだけを表示して、自動でバックアップを始められるぞ。

**簡単操作のバックアップで安心を!**



## バックアップの保存場所をクリック ②



←バックアップの保存場所を選択しよう。保存場所は同じマシンではなく、ネットワーク上の別のマシンなどを選ぼう。Amazon S3 というオンラインの有料クラウドサービスも選択できる。

## 大きなボタンをクリック ①



←Déjà Dup を起動したら大きな「バックアップ」ボタンをクリックしよう。

## 暗号化パスワードを入力 ④



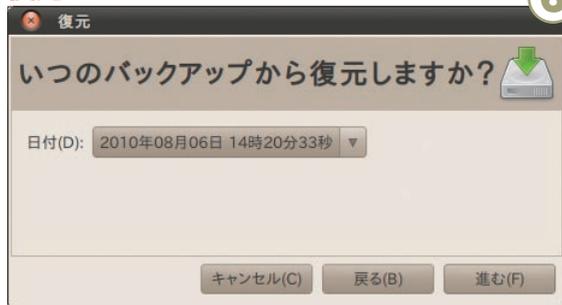
←バックアップファイルを暗号化する設定を選択した場合はパスワードの入力を求められる。このパスワードはバックアップを復元するときに必要な。これを忘れてしまうと、せっかくバックアップしても復元できないという悲しい事態になってしまう。

## 含めるものと除外するものを選択 ③



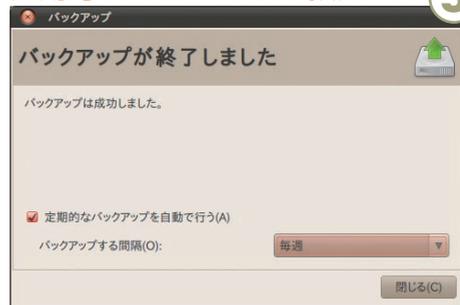
←ホームフォルダ以外に含めるフォルダがあればここで選択しておこう。UbuntuのISOイメージを保存しているフォルダなど、インターネット上のファイルをダウンロードしただけのフォルダは消えてしまってもあまり困らないので含めないフォルダとして選択してもいい。

## 復元するときは…… ⑥



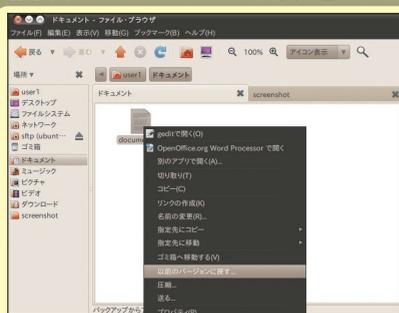
←マシンを失ってしまった場合は新たなマシンにUbuntuをインストールしてDéjà Dupを実行しよう。バックアップファイルが置かれている場所を選択したら、いつの時点のバックアップを使うか選択しよう。

## 定期的なバックアップを設定 ⑤



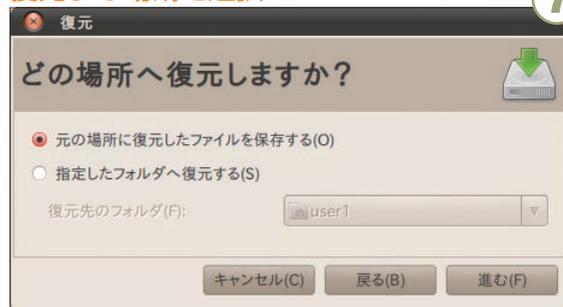
←バックアップの完了画面で、次回から定期的にバックアップするかどうか選択できる。「毎日」や「毎週」といった短めの期間を選んでおこう。Déjà Dupの設定画面では、古くなったバックアップファイルの削除も選択できる。

## 個別のファイルを復元できる



←Déjà Dupを使ってバックアップを取っていると、特定のファイルのバージョンだけ戻すという操作ができる。元に戻したいファイルを右クリックして「以前のバージョンに戻す」を選択しよう。

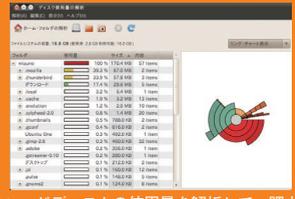
## 復元する場所を選択 ⑦



←復元先の場所を選択する。ホームフォルダが空の場合は「元の場所」を選択すればいいが、ファイルの衝突の恐れがある場合は、「指定したフォルダ」を選択して一時的なフォルダを指定しよう。

# まだまだあるぞー！お役立ち標準アプリ集

### Ubuntu 10.04 Standard Apps ディスク使用量の解析



↑ハードディスクの使用量を解析して、肥大化したディレクトリを突き止める。

「ハードディスクが一杯になったときは」

「ディスク使用量の解析」を使うには、ハードディスク内でのディレクトリがどの程度の容量を使用しているかを解析できる。例えばハードディスクが一杯になってしまった場合、なんらかのファイルを削除して空き容量を確保する必要があるので、容量を圧迫しているディレクトリを突き止める。[ファイルシステムのスキヤン]を実行すると、ディレクトリツリー全体を各ディレクトリごとに解析してくれる。解析した結果はリングチャートに表示されるので、容量を圧迫しているディレクトリが一目でわかる。といっても、実際に容量を食っているディレクトリはユーザのホームディレクトリだろう。そのような場合は「ホームフォルダの解析」を実行しよう。ホームディレクトリに範囲を限定して解析を行えるぞ。

### Ubuntu 10.04 Standard Apps ネットワーク・ツール



↑Ping からポートスキャンまで、ネットワークの便利ツールを GUI から使おう。

「ネットワークのチェックをしよう」

Linuxにはネットワークを管理、チェックするためのコマンドが豊富に用意されている。相手の応答を確認する「ping」や、ネットワークの利用状況を表示する「netstat」、対象ホストまでの経路を検索する「traceroute」、ネームサーバに問い合わせを行う「nslookup」、ドメインの情報を検索する「whois」などだ。「ネットワーク・ツール」はこういったネットワークをチェックする機能をGUIから実行するためのユーティリティだ。調べたい相手のドメイン名を入力するだけの操作で、相手のドメイン情報や相手までの経路情報といったものを調べられる。他にも利用可能なポートをチェックするポートスキャンや、今ではほとんど使われていないものの、システムのユーザ情報を得る「finger」コマンドの実行も可能なのだ。

### Ubuntu 10.04 Standard Apps スクリーンショットの取得



↑原稿執筆の必須アプリ？ スクリーンショットのキャプチャはこれひとつでOK。

「全画面、ウィンドウ、範囲指定が可能」

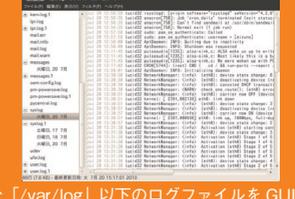
「Print」キーを押すと、画面全体のスクリーンショットをPNGファイルに保存することができ。[Alt] + 「Print」キーを押せば現在のウィンドウのみをキャプチャすることができるのはWindowsと同じだが、さらに範囲を指定してスクリーンショットを取得する機能も搭載されている。ウィンドウ境界やマウスカーソルを除外することもできるぞ。

### すばやくキャプチャ



↑「キーボード・ショートカット」に範囲を指定してキャプチャするコマンド「gnome-screenshot -a」を登録しておくとう便利だろう。

### Ubuntu 10.04 Standard Apps ログ・ビューア



↑「/var/log」以下のログファイルをGUIから閲覧できる。日付別の閲覧も可能。

「システムのログチェックをしてみよう」

「/var/log」以下のディレクトリには、数々のログが記録されている。障害の発生時などトラブルの原因を探るには、これらのログファイルを調べるのが解決への第一歩といえる。端末から「egrep」コマンドなどでログを一つずつ調べるのは大変だが、「ログ・ビューア」を使えばログの調査を簡単にできる。ログ・ビューアの左ペインにはログファイルの一覧が表示されており、閲覧したいログをクリックすれば右ペインに内容が表示される。またログファイル名に「+」マークがついている場合は、そのログに複数の日付をまたいだログが記録されているサインだ。「+」をクリックすると記録されている日付がツリー状に表示されるので、閲覧したい日付を選択しよう。これで、選択した日に該当する部分のログだけを抽出して閲覧できるのだ。

### Ubuntu 10.04 Standard Apps システム・モニタ



↑Ubuntuの稼働情報をリアルタイムでチェックしよう！

「システムの負荷をチェックしよう」

現在稼働中のシステムの情報を表示できるツールだ。まず「システム」タブでは現在稼働中のUbuntuのバージョンやカーネルのバージョン、搭載しているメモリやCPUの情報を得たい場合はここをチェックしよう。「プロセス」タブでは稼働中のプロセスを一覧表示できる。プロセスごとのメモリ使用量や負荷、ゾンビプロセスの有無などのチェックに使用しよう。もちろんプロセスIDや負荷率、プロセス名ごとにソートして表示することもできるので、負荷の高いプロセスや暴走したプロセスを終了させる時にも役立つぞ。「リソース」タブではCPUやメモリ、ネットワークの使用率をリアルタイムにグラフ化して表示できる。マルチコアのCPUであれば、全てのコアを独立してグラフ化してくれるのだ。

# 標準 アプリ徹底使いこなし術

認をするのにも役立つはずだ。ハードディスクに異常がないか確認をするのにも役立つはずだ。

内蔵ハードディスクやCD-R OMドライブからUSBメモリまで、システムに接続されているストレージを統合管理できるユーティリティだ。左ペインに接続されているデバイス一覧が表示され、選択したデバイスの詳細が右ペインに表示される。ディスクの型番、シリアルナンバー、容量といったハードウェア情報はもちろん、パーティション情報も視覚化して表示される。ここからはディスクをマウント/アンマウントしたり、パーティションの削除や新規作成、フォーマット、パーティションの設定といったディスク操作を行うことができる。

## 「ベンチマークテストからフォーマットまでおまかせ」



**Ubuntu 10.04 Standard Apps ディスク・ユーティリティ**

↑ディスクのマウントからフォーマット、ラベルの設定までを統合して管理！

可能で、SMARTデータの表示やディスクエラーがないかのセルフテスト、ディスクの読み取り/書き込みのベンチマークを行って結果をグラフに表示する、ファイルシステムのチェックを行うといった機能が用意されている。

他にも多くの操作を行うことが可能で、SMARTデータの表示やディスクエラーがないかのセルフテスト、ディスクの読み取り/書き込みのベンチマークを行って結果をグラフに表示する、ファイルシステムのチェックを行うといった機能が用意されている。

## 「Ubuntuの動作テストをするには」



**Ubuntu 10.04 Standard Apps システムテストツール**

↑システムでUbuntuが正しく動作するかのテストを行おう。

断してしまつた場合は、次回起動時にそこから再開するかどうかを選択できるので安心してほしい。

そのPCでUbuntuが正しく動作するかのテストを行うためのツールだ。テスト項目は「オーディオテスト」「グラフィックテスト」「ネットワークテスト」などの10項目に分けられ、各項目ごとにさらに詳細なテスト項目が何件かずつ用意されている。テストしたい項目にチェックを入れて「次へ」をクリックすると、選択したテスト項目が順番に実行されていくぞ。テストが正常に完了すると、結果が詳細なレポートにまとめられる。このレポートは「Launchpad」のデータベースに送信することもできる。レポートの送信には「Launchpad」アカウントが必要なので、もしアカウントを持っていないなら新規にアカウントを作成しよう。「Launchpad」に登録したメールアドレスを入力すれば、レポートの送信が行えるようになる。

## 「鍵の管理はコレにおまかせ！」



**Ubuntu 10.04 Standard Apps パスワードと暗号鍵**

↑パスワードやSSH鍵、GPG鍵などを一括管理できるGUIアプリケーション。

署名や信頼度の設定を行える。信頼できる相手の正しい鍵が確認できたら、自分の鍵で署名をしておこう。鍵の交換を行つたら署名済みの公開鍵をエクスポートして相手に渡してあげよう。

様々なパスワードや暗号鍵を使用する。例えばログインパスワードであったり、Ubuntu Oneにアクセスするパスワードや、Nautilusからネットワークフォルダにアクセスするパスワード、さらにはSSHの暗号鍵などだ。『パスワードと暗号鍵』ではこれらのパスワードや暗号鍵を一括して管理することができるぞ。『パスワード』タブでは前述のような様々なパスワードが管理されており、パスワードの確認や削除が行える。『個人の鍵』タブでは自分が使っているSSHやGPGの鍵がリストアップされる（SSH鍵については79ページを参照しよう）。『他の鍵』タブには、自分の鍵輪に取り込んだ他人の公開鍵が登録されているぞ。ここから他人の鍵への署名や信頼度の設定を行える。信頼できる相手の正しい鍵が確認できたら、自分の鍵で署名をしておこう。鍵の交換を行つたら署名済みの公開鍵をエクスポートして相手に渡してあげよう。

## 「スマートフォンにBluetoothを使えば、デバイスも物理的に接続しなくてもファイルをビーム」



**Ubuntu 10.04 Standard Apps パーソナルファイル共有**

↑Bluetoothを使ってファイル共有を行おう。スマートフォンにも対応しているぞ。

このようにBluetoothを利用するのが便利だろう。

Bluetooth機能を使えば、デバイスを物理的に接続しなくてもファイルをビーム（転送）できる。Bluetoothが使えるUbuntuマシンの同士はもちろん、WindowsモバイルやAndroid端末ともファイルの送受信が可能だ。Ubuntuデバイスのペアリングが完了したら、『パーソナルファイル共有』で「Bluetooth越しにファイル共有」にチェックを入れば、これでもホームディレクトリ内の「Public」フォルダが共有され、ペアリングしたマシンやデバイスから閲覧できるようになる。『リモートのデバイスからファイル削除できるようにする』にチェックを入れれば、リモートデバイスからファイルの書き込みや削除が行えるようになる。項目名は「削除できる」だが、ファイルの新規作成にもチェックが必要なので注意。スマートフォンはSambaなどのファイル共有サービスを利用しづらいこともあるので、このようにBluetoothを利用するのが便利だろう。

## 「脳トレゲームにハマれ！」



**Ubuntu 10.04 Standard Apps gbrainy**

↑GNOME標準の脳トレゲーム。その絶妙な難易度に悶絶せよ！